荒川区スポーツ推進プラン

《 平成 28 年度~平成 37 年度 》







平成28年4月

荒 川 区

スポーツは、心身の発達や健康の増進を図り、精神的な充足感を与えてくれるだけでなく、仲間づくりやボランティア活動など、人や地域との結びつきを強め、生甲斐づくりをサポートする役割も担っています。

また、自らプレーする以外にも観戦や応援など様々な楽しみ方や関わり方があり、スポーツを通して生み出される勇気や感動、連帯感は、人と地域を元気にする大きな力を持っています。「スポーツ」を辞書でひいてみて下さい。普段使う意味のほかに「楽しむ」という意味があることも知っておいてください。

昨今の健康志向の高まりや、4年後に控えた2020年オリンピック・パラリンピック競技大会・東京大会により、スポーツへの関心は一層強まっています。区はオリンピック・パラリンピックをスポーツ推進の好機と捉えるとともに、オリンピック・パラリンピックという世界最大のスポーツイベントの終了後も区民のスポーツ活動が活発に継続するよう、現状をしっかりと把握したうえで「荒川区スポーツ推進プラン」を策定いたしました。

荒川区では、区の将来像を「幸福実感都市 あらかわ」とし、心の豊さや人のつながりを 大切にした、区民一人ひとりが真に幸福を実感できるまちを目指しています。荒川区のスポーツ振興の目的は、スポーツを軸として、様々な力を結集し、乳幼児から高齢者まであらゆる区民の「幸福実感」を高めることにあります。

荒川区では、区民のスポーツ活動をこれまで以上に推進するため、平成26年度に「地域文化スポーツ部」を創設し、これまで教育委員会事務局に属した社会体育課を「スポーツ振興課」に改め、地域文化スポーツ部スポーツ振興課として区を挙げてスポーツの振興に取り組んでいます。

更に、平成26年度には1億円のスポーツ振興基金を創設するとともに、経済的な支援として、中学校の部活動への支援や青少年の全国大会等への参加経費の支援をはじめ、世界大会に参加するアスリート等への支援も充実しました。

こうした区の取組を更に推進し、スポーツ推進委員の方々や体育協会をはじめとするスポーツ団体、関係機関の皆様と共に手を携えて、スポーツの力で輝く荒川区を築いてまいりたいと思っています。

本プランは、スポーツに対し「する」「みる」「支える」をアプローチの視点とし、「広げる」「高める」「つなぐ」をプランの推進のキーワードに、「すべての区民が 身近な地域でスポーツに親しみ スポーツの力を大きく育みながら スポーツで 人が まちが 未来が 輝く荒川区を創る」を基本理念に据え、区におけるスポーツの更なる推進を図るものです。

区は、本プランに掲げた施策を着実に推進し、「幸福実感都市あらかわ」の実現に向けた取組をさらに進めてまいりますので、皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

結びに、本計画の策定に貴重なご意見やご提言をくださった荒川区スポーツ推進プラン 策定委員会の皆様、区議会をはじめ区民の皆様、関係機関の方々に、心から感謝を申し上 げます。

平成28年4月

荒川区長 あ 川 太一郎



目次

| はじめ | | |
|-----|--|----|
| 第1章 | プランの策定にあたって | 1 |
| 1 | プランの策定と背景 (1) 荒川区が目指すスポーツの推進 (2) スポーツを取り巻く社会状況の変化 | |
| 2 | プランの位置づけ・計画期間 (1) 位置づけ (2) 計画期間 | |
| 第2章 | 荒川区のスポーツの現状と課題 | 13 |
| 1 | 区民のスポーツ環境(1) 区の取組み(2) スポーツ団体等(3) 大学・研究機関等(4) 民間スポーツ施設 | |
| 2 | 区民のスポーツ意識 | |
| 3 | スポーツ推進の課題 | |
| 第3章 | 基本的な考え方 | 29 |
| 1 | 基本理念と基本目標 (1) 基本理念 (2) 基本目標 | |
| 2 | 推進のキーワードとアプローチの視点 (1) 推進のキーワード 〜広げる・高める・つなぐ〜 (2) アプローチの視点 〜する・みる・支える〜 | |
| 3 | 施策の体系と事業 (1) 体系図 (2) 事業 | |
| 第4章 | 重点プロジェクト | 51 |
| 1 | 障がい者スポーツの推進 | |
| 2 | 子どもたちのスポーツ活動の充実 | |
| 3 | ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着 | |
| 4 | スポーツを支える地域力の醸成 | |
| 5 | スポーツ施設の整備 | |

| 第5 | 章 | プランの推進に向けて | 61 |
|----|---|-----------------------|----|
| | 1 | 区民・団体・事業者等との連携 | |
| | 2 | 推進体制の充実 | |
| | 3 | プランの着実な実行 | |
| 資料 | 編 | | 65 |
| | 1 | 荒川区民スポーツ意識調査 | |
| | 2 | 荒川区スポーツ推進プラン策定委員会設置要綱 | |
| | 3 | 荒川区スポーツ推進プラン策定委員会委員名簿 | |
| | 4 | 検討経過 | |



第1章 プランの策定にあたって

- 1 プランの策定と背景
 - (1) 荒川区が目指すスポーツの推進
 - (2) スポーツを取り巻く社会状況の変化
- 2 プランの位置づけ・計画期間
 - (1)位置付け
 - (2)計画期間



▲荒川総合スポーツセンター

第1章 プランの策定にあたって

1 プランの策定と背景

(1) 荒川区が目指すスポーツの推進

荒川区では、物質的な豊かさや経済効率だけでなく、心の豊かさや人と人との繋がりを大切にしながら、区民一人一人が真に幸福を実感できるまちづくりを進めるため、平成19年3月に策定した荒川区基本構想において、区の目指すべき将来像を「幸福実感都市あらかわ」と定めました。更に、この区の将来像を支える六つの都市像を位置づけ、「幸福実感都市あらかわ」の実現に向けて様々な取り組みを行っています。

■ 荒川区の将来像と六つの都市像



荒川区のスポーツ振興の目的は、スポーツを軸として、基本構想で示した六つの都市像が持つ様々な力を結集し、乳幼児から高齢者まであらゆる区民の「幸福実感」を高めることにあります。

本プランはその道筋を明確にし、区におけるスポーツの更なる推進を図るものです。

① 区民の幸福実感の向上とスポーツの役割

「幸福実感都市あらかわ」の実現を目指す荒川区では、区民の幸福度に関する調査を実施しており、区民が幸福な生活に欠かせないと考えるものの第一位は「健康」であるとの結果を得ています(*1)。健康を維持するためにも、日々のスポーツ習慣は重要な役割を果たします。また、幸福度調査では、地域社会との結びつきが強いほど幸せだと感じる人の割合が高くなっています(*2)。スポーツは、仲間づくりやボランティア活動など地域との結びつきを強め、社会貢献活動などにも繋がることから、健康増進はもとより生甲斐づくりをサポートします。

(*1)(*2)公益財団法人荒川区自治総合研究所が平成25・26年度に実施した、「荒川区民総幸福度(GAH)に関する区民アンケート調査」の結果より

② 「幸福実感都市あらかわ」の実現にむけた六つの都市像の連携

スポーツを通して「幸福実感都市あらかわ」の実現を図るためには、健康、福祉、教育、子育て、文化、経済など、区政のあらゆる分野が力を併せて施策を実施することが重要です。そのため、スポーツを軸として六つの都市像が相互に連携し、一体となって取り組みを進めることが肝要であると考えます。

幸福実感都市 あらかわ



バリアフリーの街づくり 地域の仲間づくり 生活習慣病の予防

介護予防

健康増進

生涯健康都市

安全安心都市

子育て教育都市

スポーツを軸とした 連携

親子の体力づくり 子どもの体力アップ 指導員の育成

文化創造都市

産業革新都市

スポーツ交流 ボランティアの育成 スポーツイベント

環境先進都市

パワースーツ等の開発 介護予防用品等の開発 まち歩きイベント

歩いて楽しいまちづくり スポーツゴミ拾い



荒川区スポーツ推進プラン

(2) スポーツを取り巻く社会状況の変化

スポーツを取り巻く環境は、経済状況や世相を反映して様々に変化してきました。 とりわけ、昭和39年(1964年)のオリンピック東京大会は、我が国における スポーツへの関心を飛躍的に高める契機となりました。そして、一昨年、2020年 オリンピック・パラリンピック協議会の東京開催が決定したことを受け、スポーツへ の関心や健康づくりに対する機運はこれまでにも増して高まっています。

こうした背景を踏まえて、ここでは、昭和39年(1964年)以降のスポーツを 取り巻く社会状況の変化を考察し、現状を的確に把握することで、更なるスポーツ推 進の方策を探り、本プランに反映することとします。

① 昭和39年(1964年)~昭和54年(1979年)

昭和39年(1964年)、アジア初のオリンピックが東京で開催されました。これを契機に、翌々年には「体育の日」が制定され、スポーツが広く生活に浸透していきました。また、カラーテレビの普及に伴い、野球、相撲、ボクシング、ボウリングなど、多くの競技がテレビ放映され、スポーツ選手を主人公としたドラマやアニメ等が数多く制作されたのもこの時期です。

荒川区では、運動場などの屋外スポーツ施設の整備が進みました。

【主な出来事】

| 年 | 世界 | 国 | 東京都 | 荒川区 |
|-------------|----------------------|---------------|-----------|---------------------|
| 昭和39年 | マジ | マ知の工齢しわて | 声声よりいどふみが | 用 / 宏 |
| (1964年) | | ノ 例の五輪となる、 | 東京オリンピックが | 用消售 |
| 昭和41年 | | 体育の日制定 | | |
| (1966年) | | 件目17日前足 | | |
| 昭和45年 | 植村直己、世界初 | | | 少年運動場が開設 |
| (1970年) | 5大陸最高峰登頂 | | | 少十連動物が開設 |
| 昭和46年 | | ## | | 荒川区体育協会 |
| (1971年) | | 横綱大鵬引退 | | 創立20周年 |
| 昭和47年 | | 札幌オリンピック | | 荒川区体育指導 員制度の創設10 |
| (1972年) | | (冬季大会)開催 | | 貝間及の剧設 I U 周年 |
| 昭和49年 | | プロ野球長嶋茂雄 | | 荒川自然公園内 |
| (1974年) | | 引退 | | 運動施設が開設 |
| 昭和51年 | モントリオールオリ | | | |
| (1976年) | ンピックで女子体 操コマネチが満点 | | | |
| nn in color | 1条ユマイノが個点 | プロ野球王貞治、 | | |
| 昭和52年 | | 756本塁打世界記 | | |
| (1977年) | | 録達成 | | |
| 昭和54年 | | | 第1回東京国際女 | 区民運動場開設 |
| (1979年) | | | 子マラソン開催 | |

② 昭和55年(1980年)~平成12年(2000年)

高度成長期とバブル経済の崩壊を経て、経済活動は徐々に停滞期に入りました。 介護保険制度の導入など、健康長寿や介護予防に力点が置かれ、健康ブームが興り ました。Jリーグの開幕、海の日の制定、我が国二度目となる冬季オリンピックが長 野で開催されたのもこの時期です。

荒川区では南千住野球場や総合スポーツセンター、荒川遊園スポーツハウスが開設し、屋内外のスポーツ環境が整備されました。

【主な出来事】

| 年 | 世界 | 国 | 東京都 | 荒川区 |
|-----------------|--|---------------------------|-----------------|---|
| 昭和55年 | | モスクワオリンピッ | | |
| (1980年) | | クに出場せず | | |
| 昭和56年 | | | | 荒川区体育協会 |
| (1981年) | | | | 創立30周年 |
| 昭和57年(1982年) | | | | 南千住野球場が 開設、荒川区体育 指導員制度の創設 |
| 昭和58年 | 第1回世界陸上競 技選手権大会が ヘルシンキで開催 | | | 20周年 |
| 昭和59年 | カール・ルイスがオ | | | |
| (1984年) | リンピックで陸上4 冠達成 | | | |
| 昭和60年 | | ラグビー・新日鉄 | | 荒川総合スポーツ |
| (1985年) | | 釜石が7連覇達成 | | センターが開設 |
| 昭和61年(1986年) | マラドーナの活躍 でアルゼンチンが サッカーワールドカ ップ優勝 | | | |
| 昭和62年 | 第1回ラグビー・ワ | | 後楽園球場50年 | あらかわ遊園運動 |
| (1987年) | ールドカップ開催 | | に及ぶ歴史に幕 | 場開設 |
| 昭和63年(1988年) | ベン・ジョンソンが オリンピック陸上男 子100mでドーピ ングにより金メダル 剥奪 | | 東京ドーム落成 | |
| 平成元年 (1989年) | | 横綱千代の富士、 角界初・国民栄誉 賞 | | |
| 平成3年 (1991年) | NBA マジック・ジョ ンソン引退 | | 世界陸上・東京で 初開催 | 東尾久運動場開設 荒川体育協会創 立40周年 荒川リバーサイドマ ラソン初開催 |

● 第1章 プランの策定にあたって

| 年 | 世界 | 国 | 東京都 | 荒川区 |
|-----------------|--|------------------------|-----------------------------|---|
| 平成4年 (1992年) | 渡辺高博 バルセロナオリンピック出場 | | | 荒川区体育指導 員制度の創設30 周年 |
| 平成5年 (1993年) | サッカー・ドーハの 悲劇 | Jリーグ開幕 | | あらかわ遊園スポー ツハウスが開設 |
| 平成6年(1994年) | | | | ラジオ体操 NHK 全 国放送(南千住野 球場) |
| 平成7年(1995年) | 野茂英雄がメジャ ーリーグ・ドジャー ズに入団 | | | |
| 平成8年(1996年) | カール・ルイス、ア トランタオリンピック で走幅跳び4連覇 | 海の日制定 | | |
| 平成9年 (1997年) | タイガーウッズ、マ スターズゴルフ史 上最年少優勝 | | 第50回都民体育 大会 | |
| 平成10年(1998年) | FIFA ワールドカップに日本初出場 | 長 野 オリンピック (冬季大会)開催 | 第10回都民スポ ーツ・レクリエーション大会開催 | |
| 平成11年(1999年) | NBA マイケル・ジョ ーダンが引退 | | | ラジオ体操 NHK 全 国放送(南千住野 球場) |
| 平成12年(2000年) | シドニーオリンピッ クで高橋尚子が日 本女子陸上史上 初の金メダル獲得 | | | あらかわ遊園スポーツハウスに係る業務を教育委員会に管理委任し、荒川総合スポーツセンターなど区内運動施設が一元的な管理となる |

③ 平成13年(2001年)~平成27年(2015年)

21世紀を迎え、携帯電話やインターネット等の普及により、子どもたちの遊びの形態が変化してきました。少子化の影響もあり、缶蹴りや鬼ごっこといった昔ながらの外遊びが減少する一方、区内には民間のスポーツジムなどが充実し、水泳教室等に通う子どもたちが増えるなど、運動をする子どもと運動をしない子どもの両極化が進んでいます。また、高齢化の進展により、生活習慣病の予防や介護予防の充実がより重要度を増しています。

更に、ICTの普及により、体調の自己管理を促進するアプリケーションが充実し、インターネットではスポーツの世界大会やオリンピック等の模様がリアルタイムでわかるなど、世界のスポーツを身近なものにました。

平成25年(2013年)9月、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の東京開催が決定したこともあり、スポーツに対する気運が高まっています。

荒川区では、平成26年度の組織改正により、スポーツ及び文化行政に関して、「地域づくり」という観点から、地域文化スポーツ部を創設し、社会体育課の名称もスポーツ振興課と改めました。また、荒川区体育協会は、平成13年(2001年)に創立50周年、平成23年(2011年)には創立60周年を迎え、平成27年度は、協会の安定的かつ発展的な運営を確保し、区のスポーツ振興の更なる充実を図るため、法人化に向けた準備を進めており、区もそれを支援しています。

【主な出来事】

| 年 | 世界 | 玉 | 東京都 | 荒川区 |
|--------------|--|--------------------------------------|---|--|
| 平成13年(2001年) | タイガー・ウッズ、メ ジャー大会4連覇 | 全日本軟式卓球選手権大会女子シックスティの部で大掛まさ美(荒川区)が優勝 | 第50回東京都鮒 釣り選手権大会で 荒川区が優勝 | 荒川区体育協会 創立50周年 |
| 平成14年(2002年) | | 日本・韓国、FIFA ワールドカップ共 催 | 第55回都民体育 大会春季大会弓 道競技女子の部で 荒川区が優勝 | 荒川区体育指導 員制度の創設40 周年 |
| 平成15年(2003年) | | 横綱貴乃花光司が現役を引退 | | 荒川リバーサイドマ ラソンの参加資格 を区外の方にも拡 大 |
| 平成16年(2004年) | アテネオリンピック で競泳の北島康介 (100m、200m 平 泳ぎ金メダル)ら日 本選手団がメダル ラッシュ | プロ野球選手会が 球界再編問題をめぐり、史上初のストを決行 | | ふれあいスポーツ フェスティバルを開 催 |

| 平成17年(2005年) 平成18年(2006年) | NHL のロックアウト により、北米4大プロスポーツリーグ史 上初のシーズン全 試合中止 第1回ワールド・ベースボール・クラシック開催、初代王 者に日本代表 | | 第26回東京都地区対抗サッカー大会で荒川区代表が優勝 | あらかわ生涯スポーツフェスティバルが初開催 荒川リバーサイドマラソンにて、東京都障がい者スポーツ指導員協議会荒川の協力を得る |
|---------------------------|--|---|--|---|
| 平成19年(2007年) | | 第17日全日 17日 17日 17日 17日 17日 17日 17日 17日 17日 17 | 第60回都民体育 大会冬季大会スキー競技男子総合 荒川区代表が優勝 第56回東京都大会 団体の部で荒川医 釣魚連合会が優勝 東京マラソンが初 開催 | 総合型地域スポーツクラブの創設研修が開始 荒川総合スポーツセンターに指定管理者制度を導入 |
| 平成20年(2008年) | 北京オリンピックで 北島康介が100 m、200m 平泳ぎで 金メダルを獲得(オ リンピック史上初の 平泳ぎ2大会連続 2種目制覇) 第3回女子野球ワ ールドカップで日 本が初優勝(志村 亜貴子出場) | | 東京都スポーツ振興基本計画を策定 | 南千住地区総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会創設 |

| 平成21年(2009年) | イチローがメジャー 新記録となる9年 連続200安打 | 第5回全日本女子 硬式野球選手権 大会でアサヒトラスト(荒川区)が優勝 | | 生涯スポーツフェスティバルと楽楽ニュースポーツとのコラボで1,000人を超える参加者を集める |
|--------------|--|--|--|--|
| 平成22年(2010年) | 第4回女子野球ワールドカップで日本が2連覇(志村亜貴子出場、ベストナインに選出) | プロ野球の金本知 憲が1492試合連 続フルイニング出 場の世界記録を樹 立 | 第63回都民体育 大会(区市町村対 抗)春季大会柔道 競技で荒川区柔道 会が優勝 | 武道会を実施 総合型地域スポー ツクラブの「南千住 スポーツクラブ」が 開設 |
| 平成23年(2011年) | FIFA 女子ワールド カップで日本が初 優勝 高田千明が IBSA WORLD GAMES(視覚障害 者の世界大会) 2 00m(銀)、100m (銅)でメダルを獲 得し、全盲日本人 女子短距離初のメ ダリストとなる | 東日本大震災によるスポーツへの影響 不ポーツ基本法を制定 スポーツ基本法を制定 スポーツ振興法で定められた体育指導委員がスポーツ 基本法によりスポーツ推進委員と呼称が変更される | | 荒川区体育協会 創立60周年 |
| 平成24年(2012年) | ロンドンオリンピックで日本選手団は史上最多の38個のメダルを獲得トロント世界ろう者陸上競技選手権大会4×400mリレーで聴覚障害者の国際大会における日本男子トラック種目史上初のメダル | オリンピック3連覇、世界選手権13連覇を達成した、レスリング・吉田沙保里が国民栄誉賞を受賞スポーツ基本法に基づくスポーツ基本計画を策定 | | 荒川区体育指導 員制度の創設50 周年 区政80周年記念 大会として開催し た荒川リバーサイド マラソンに為末大 ほかを招待し、募 集定員2,500名と した |

| | (銅メダル)獲得 (第一走者:高田 裕士) 第5回女子野球ワ ールドカップで日 本が3連覇(志村 亜貴子出場) | 中学校学習指導 要領の改訂によ り、保健体育にお いて、武道・ダンス が必修化 | | |
|--------------|---|---|--|---|
| 平成25年(2013年) | | | 2020年のオリンピック・パラリンピック の開催地が東京に 決定 東京都スポーツ推 進計画を策定 | 体育の記念行事に おいて、武道団体 による「武道を全部 見せるぞ」(模範演 武)を実施 |
| 平成26年(2014年) | 第6回女子野球ワールドカップで日本が4連覇(志村亜貴子出場、ベストナインに選出) | スポーツを 点から行うに 関連を 事がらで 関連を ので ので ので ので ので ので ので ので ので ので | | 組織改正によりスポーツ振興課が発足 |
| 平成27年(2015年) | | ラグビー・ワールド カップで日本代表 が躍進 スポーツ庁が発足 | | 区民運動場が改 修・再開 |

2 プランの位置づけ・計画期間

(1)位置付け

本プランは、荒川区の将来像「幸福実感都市あらかわ」の実現に寄与する役割を担い、区の基本構想及び基本計画に基づき、区におけるスポーツの更なる推進に向けた方向性を示すものです。

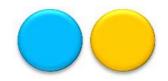
加えて、区が策定する生涯学習推進計画や学校教育ビジョンなど、スポーツに深く関わる計画との整合を図るとともに、効率的かつ効果的な事業展開が可能となるよう、区の将来像を支える六つの都市像相互の連携と、区を挙げたスポーツの推進体制を明らかにするものです。

また、本計画は、スポーツ基本法(平成23年法律第78号)第10条第1項に 定める「地方スポーツ推進計画」の性格を有し、国の「スポーツ推進計画」(平成2 4年策定)を踏まえるとともに、国及び東京都が推進するスポーツ関連事業との役 割分担を図ります。

(2)計画期間

本プランの計画期間は、平成28年度から平成37年度の10か年とします。 また、本プランは、スポーツを取り巻く社会環境の変化等を的確に反映させるため、5年後に見直すこととします。





第2章 荒川区のスポーツの現状と課題

- 1 区民のスポーツ環境
 - (1)区の取組み
 - (2)スポーツ団体等
 - (3)大学・研究機関等
 - (4) 民間スポーツ施設
- 2 区民のスポーツ意識
- 3 スポーツ推進の課題



▲あらかわ遊園スポーツハウス

第2章 荒川区のスポーツの現状と課題

1 区民のスポーツ環境

(1)区の取組み

荒川区は、スポーツ政策に関して、これまで行って来た教育委員会部局の社会体育という視点から、平成26年度に区長部局に組織を創設し、区民のスポーツ活動の更なる推進を図っています。ここでは、区がこれまで実施してきた事業や施設整備等について整理し、本プランに反映することとします。

(1) スポーツを所管する組織の改正とスポーツ事業等

荒川区は、区民のスポーツ活動をこれまで以上に推進するため、平成26年度に組織を改正し「地域文化スポーツ部」を創設しました。これに伴い、これまで教育委員会事務局に属した社会体育課を「スポーツ振興課」に改め、地域文化スポーツ部スポーツ振興課として区を挙げてスポーツの振興に取り組んでいます。

スポーツ振興課では、区民体育大会をはじめとするスポーツイベントを、スポーツ 推進委員等の協力を得て毎月開催しています。加えて、子ども達が運動の楽しさを知 るきっかけづくりとなるよう荒川区体育協会等との共催で事業を実施しているほか、 各種団体が実施するスポーツイベントに対する後援も行っています。

更に、平成26年度には1億円のスポーツ振興基金も創設しました。このスポーツ 基金は、「障がい者スポーツの推進」と「スポーツを通した子ども達の育成」の二つ を柱にした事業に充てています。また、経済的な支援として、中学校の部活動への支 援や青少年の全国大会等への参加経費の支援をはじめ、世界大会に参加するアスリー ト等への支援も行っています。

一方、昨今の健康志向の高まりは、健康づくりや介護予防等の分野における事業の充実にも繋がっています。また、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会・東京大会が決定し、スポーツへの関心が一層高まっています。区は、オリンピック・パラリンピックをスポーツ推進の好機と捉えるとともに、オリンピック・パラリンピックという世界最大のスポーツイベントが終わってもなお、区民のスポーツ活動が活発に継続するよう、現状をしっかりと把握したうえで計画を策定することとしました。

② 地勢を活かしたスポーツ事業の展開とスポーツ施設等

東京23区の東北部に位置する荒川区は、区の北部から東部に沿って隅田川が流れ、 区内の土地の大部分はほとんど起伏が無く平坦です。

区の面積10.16平方キロメートルは23区中22番目と狭く、木造住宅密集地域が6割を占める荒川区において、建物の不燃化促進や細街路の拡幅、公園・広場等のオープンスペースの確保など土地の有効活用は重要な課題であり、新たに大規模なスポーツ施設を整備することは難しい状況にあります。

しかしながら、区ではこの地勢を活かして、区内最大のスポーツイベントともいえるリバーサイドマラソンを毎年開催しているほか、スポーツを身近なものとして区民全体に広めるため、ウオーキング指導員養成の講習やウオーキングイベントも開催しています。

広い空地の少ない都内にあっても、例えば、国土交通省の許可を得て河川敷を野球場やサッカー場として活用するほか、東京都の水再生センターの覆蓋部を公園として整備し、その公園内にテニスコートや子どもプールを設置しています。そのほかにも、新設の中学校グラウンドと区民運動場の相互利用を図るなど様々な工夫を行っています。加えて、区内の小中学校の体育館や校庭では、夜間の時間帯を活用したスポーツひろば事業も行っています。

区営の室内施設、屋外施設は、人口が同規模の他の区と比べても同程度の整備状況 となっています。一方で、とりわけ屋内施設においては築31年となる総合スポーツ センターなど、老朽化が進んでいます。



▲尾久八幡中学校と区民運動場

(2)スポーツ団体等

荒川区には、区民のスポーツの普及及び推進を図るために指導、助言を行うスポーツ推進委員や荒川区体育協会を始め様々なスポーツ団体があり、それぞれの団体が活発に活動することで区民のスポーツ振興に大きな役割を果たしています。

特にスポーツ推進委員と体育協会は、奉仕の精神で地域の方々にスポーツに親しみやすい環境を提供し、区のスポーツ振興に大きな貢献をしています。更に区内では、地域に根差した総合型地域スポーツクラブである南千住スポーツクラブや各種団体が積極的に活動しています。

荒川区の強みは、下町人情が息づく温かい地域社会の中で、人と人との結びつきを大切にする地域の力(地域力)です。区におけるスポーツの更なる推進にあっても、この地域力は欠くことのできない財産です。ここでは、区民のスポーツ活動推進の原動力である、スポーツ推進委員やスポーツ団体等の役割を再確認し、本プランに反映します。

① スポーツ推進委員

スポーツ推進委員は、平成23年のスポーツ基本法の制定に伴い「体育指導委員」 から名称が変更となっており、スポーツ基本法の理念に基づきスポーツの普及・推進 に取り組み、スポーツを通じて心と身体の健全な発達を促すとともに、明るく豊かで、 活力と生きがいのある地域社会の形成に尽力している方々です。

公的性格を有しているスポーツ推進委員は、地域の方のニーズを敏感にくみ取り区 の施策として反映させるとともに、地域と区と密接に結びつける役割を担っています。

スポーツ推進委員はスポーツに関する識見を有するとともに、子どもから高齢者まで地域の方々のスポーツ状況も十分把握している方から選ばれており、スポーツひろばやドッヂビー大会など地域のスポーツ活動への支援を始め、積極的にスポーツイベントの運営に参画するなど、地域スポーツの振興に多大な貢献をしています。

スポーツ推進委員の主な活動内容は、以下のとおりです。

| スポーツひろばの企画・運営(年間) | ドッヂビー大会の企画・運営(年2回) |
|-------------------|--------------------|
| こども・あらリンピックの企画・運営 | ニュースポーツの出張指導(年間) |
| 荒川リバーサイドマラソン企画・運営 | 各種研修等への参加 |
| 生涯スポーツ事業の企画・運営 | 広報誌の発行(年2回) |

② 荒川区体育協会

昭和23年に結成された荒川区文化委員会体育連盟を前身として、昭和26年に改称した団体で、現在27競技団体が加盟し、日本体育協会、東京都体育協会の下部組織として活動する、区内最大のスポーツ団体です。

体育協会はこれまでも区内における体育・スポーツ事業の実施主体として、区のスポーツ振興に大きな役割を果たし、区と緊密に連携して事業を実施してきました。

特に平成28年4月には法人格を取得し、「一般社団法人荒川区体育協会」として、 社会的、法的に自主自立した団体となることで、これまで以上に荒川区におけるスポーツ振興に寄与することとなります。

加盟団体(平成28年4月現在・五十音順)

| 合気道連盟 | アーチェリー協会 | 居合道連盟 |
|------------|----------|-------------|
| 空手道連盟 | 弓道連盟 | キンボールスポーツ連盟 |
| クレー射撃連盟 | ゲートボール協会 | 剣道連盟 |
| サッカー協会 | 柔道会 | 水泳連盟 |
| スキー連盟 | ソフトテニス連盟 | 卓球連盟 |
| 釣魚連合会 | テニス連盟 | 軟式野球連盟 |
| バスケットボール協会 | バドミントン協会 | バレーボール協会 |
| ビーチボール協会 | ボウリング協会 | ミニテニス協会 |
| ライフル射撃協会 | ラジオ体操会連盟 | 陸上競技協会 |

③ 総合型地域スポーツクラブ

総合型地域スポーツクラブは、地域の学校等を活動場所として、地域住民自らが主体的に企画・運営するとともに、年齢、関心、技術等に応じて、気軽にスポーツ活動ができ、地域の多世代交流の拠点として地域コミュニティの活性化も期待される団体です。

荒川区には、平成22年11月に設立した南千住スポーツクラブがあり、汐入小学校を拠点として近隣に住む子どもから高齢者まで約300名の会員が活動しています。区内各地区に設立されることが望ましいと考えますが、現在は、当面の目標である2か所目の総合型地域スポーツクラブの設立に向けて、スポーツ推進委員と体育協会を中心に検討が続けられています。

④ 地域の団体等

荒川区には、前述の3団体以外にもスポーツ活動を行っている多くの団体等があります。例えば、障がい者スポーツ普及を目指す障がい者スポーツ指導員協議会荒川、歴史あるわんぱく相撲荒川区大会を開催する東京青年会議所荒川区委員会など、様々な団体がスポーツの裾野を広げる事業を展開しています。

このほか、自主的にスポーツ活動や社会教育活動を行う区民のグループやサークルが、区に登録して活動する社会教育関係団体制度があり、社会教育関係団体のうち、スポーツ活動を行う団体として481団体(平成28年4月1日現在)が登録しています。

(3)大学・研究機関等

区内には公立大学法人首都大学東京の首都大学東京荒川キャンパスと東京都立産業技術高等専門学校荒川キャンパスがあります。体育館やグラウンド等のスポーツ施設の区民利用で連携を図るほか、両キャンパスの専門分野である福祉や医療等で連携を進めています。

このほか、区内には義足などの義肢や装具を作成し、リハビリテーションを行う専門組織である、公益財団法人鉄道弘済会「義肢装具サポートセンター」や、ドーピングを検査する機関である、公益財団法人日本分析センター「アンチ・ドーピング研究所」があります。こうしたスポーツを支える活動を行っている二つの専門機関とも連携を進めます。

(4) 民間スポーツ施設

区内には、温水プールやトレーニングマシンを備えた様々なタイプの民間スポーツ施設があります。設備や利用時間・利用方法に特徴のある施設も多く、仕事などで時間的な制約のある方でも比較的自由に利用できます。身近にスポーツに親しめる場を提供するという観点からも、民間施設と区立スポーツ施設との役割分担のもと、区民の更なるスポーツ活動の活性化を図ります。

2 区民のスポーツ意識

区では、本プラン策定の基礎資料とするため、平成27年5月から6月にかけて区 民のスポーツに関する意識や実態についてのアンケート調査「荒川区民スポーツ意識 調査」を実施しました。

この調査は区内在住の18歳以上の方の中から2, 500人の方を無作為に抽出してアンケートを実施し、1, 214人(48.6%)の方から回答を得たものです。

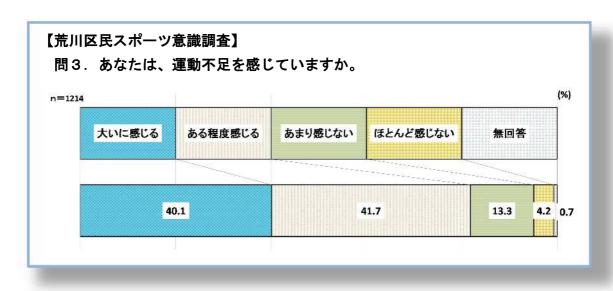
ここでは、この調査結果のほか、小・中学生を対象にした「荒川区学力向上のための調査(平成26年度)」及び小学5・6年生と中学生、その保護者を対象にした「平成26年度荒川区「家庭における親の教育意識と青少年」意識調査」の結果も参考にして、区民のスポーツに関する現状について考えます。

(1)健康・体力について

自分の健康状態について、「健康・どちらかといえば健康」と感じている方が8割程度となっており、「体力に自信がある・どちらかといえば自信がある」と感じている方は5割を超えています(*1)。 (*1) 資料編 P67 参照

しかし、運動不足を感じている方が8割を超えており、もっとスポーツや運動がしたいが時間がないなどの理由でできない方が多くなっています。

特に、運動不足を感じているのは若い世代で、30歳代が最も多くなっており、次いで40歳代、20歳代と続きます。また、夫婦2人の世帯や中学生以上のお子さんがいる世帯よりも、未就学児や小学生など小さなお子さんのいる世帯で運動不足を感じている結果となっています。



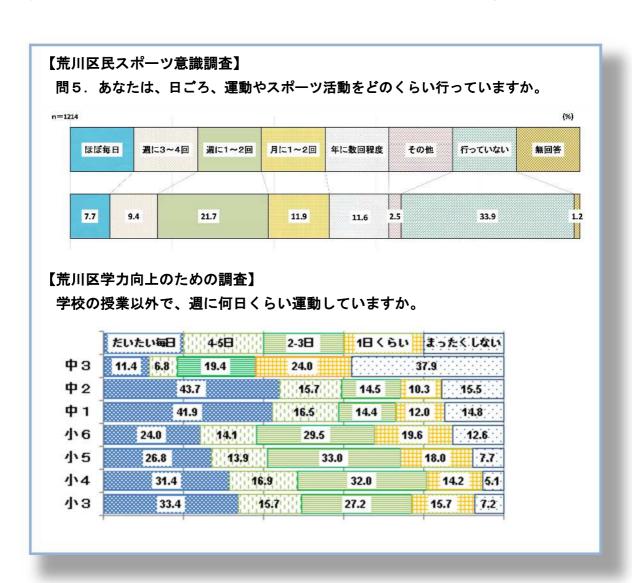
(2) スポーツの実施状況について

スポーツや運動は、幸福で豊かな生活を送るために必要であると答えた方は9割を超えていますが、実際の実施状況を見ると、週1回以上スポーツや運動を行っている方が4割弱という結果でした。

その理由として、「仕事や介護、育児等で忙しい」、「体力に自信がない」、「経済的」 といったことのほか、「特に理由はないがスポーツや運動を行っていない」という方 も多くいました。

また、世帯別に見ると、未就学児のお子さんのいる家庭が最もスポーツや運動を行っていない状況にあり、育児等で時間がないことが原因となっています。次いで小・中学生のお子さんのいる家庭となっていますが、時間がないことのほかに経済的な理由も原因となっています。

このほか、小学1・2年生について、学校から帰ってから友達と遊ぶとき、「外で遊んでいる」と答えたのは6割程度となっています。また、小学3年生から中学生については、授業以外で運動しているか聞いたところ、週1日以上運動している児童・生徒は、学年が上がるに従って9割から6割程度に減少しています。



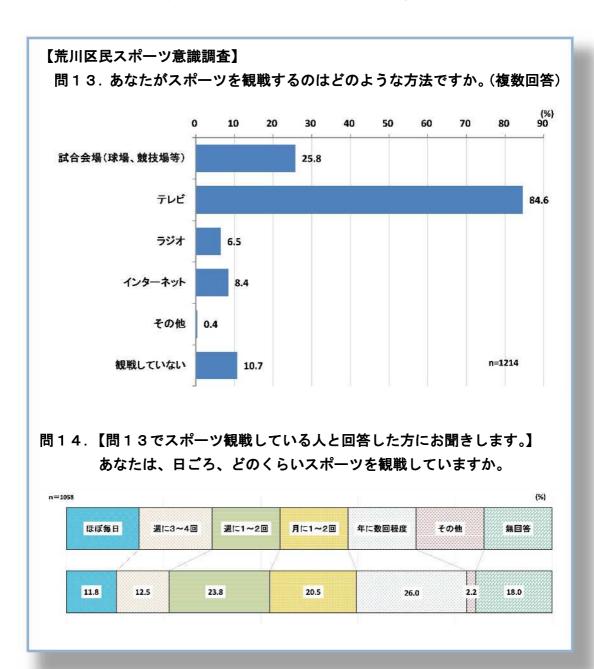
(3) スポーツ観戦について

週1回以上スポーツを観戦すると回答した方は5割弱となっており、テレビでの観戦が最も多く、2番目に回答の多かった試合会場での観戦と比べ60ポイント近い差が開いています。

世帯の状況で見ると、未就学児のお子さんのいる家庭では観戦頻度が最も低い状況にありますが、小学生のお子さんのいる家庭では月1回以上観戦する割合が7割を超えており、未就学児のお子さんのいる家庭の5割弱と比較し差が生じています(*!)。

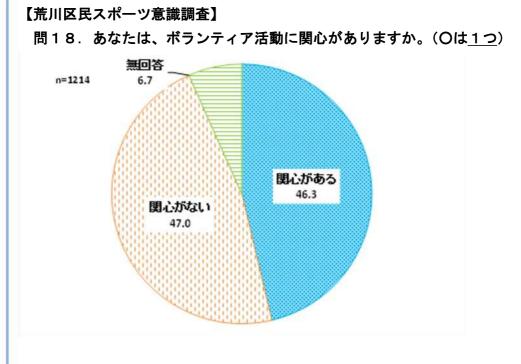
(*1) 資料編 P76 参照

近年の情報通信環境の飛躍的な発展によりインターネット等での観戦も可能となっていますが、まだまだテレビでの観戦が圧倒的に多く、臨場感や一体感を感じることができる試合会場での観戦は3割弱にとどまっています。

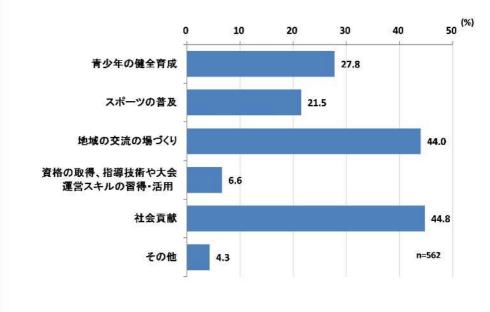


(4) スポーツを支える活動について

ボランティア活動への関心の有無は、「ある」と「ない」が4割を超えほぼ同数でした。このうち、「ある」と回答した方はその目的として、「地域の交流の場づくり」や「社会貢献」を挙げた方が、それぞれ4割を超えています。



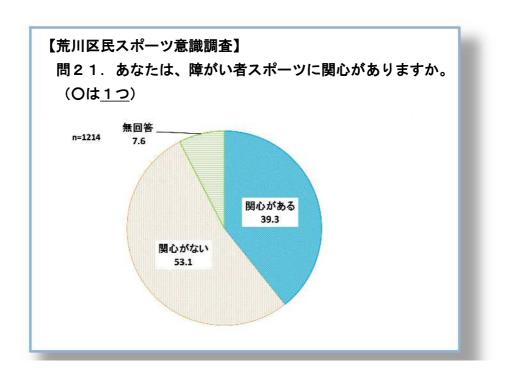
問20. 【問18でボランティア活動に関心があると回答した方にお聞きします。】 あなたは、どのような目的で(引き続き)スポーツを支える活動に参加 したいと思いますか。(〇は<u>いくつでも</u>)



(5) 障がい者スポーツについて

障がい者スポーツへの関心について聞いたところ、4割弱の方が関心があると答えましたが、障がい者スポーツに関する用語を聞いたところ、「パラリンピック」以外の「デフリンピック」や「スペシャルオリンピックス」といった用語は7割以上の方が知らないと答えています。

このほか、障がい者スポーツの競技名についても、「車椅子バスケットボール」や「ブラインドサッカー」の認知度は高いものの、「ボッチャ」や「デフバレーボール」は7割以上の方が知らないと答えています。



ボッチャ

ボッチャは、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障がい者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、 他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

デフバレーボール

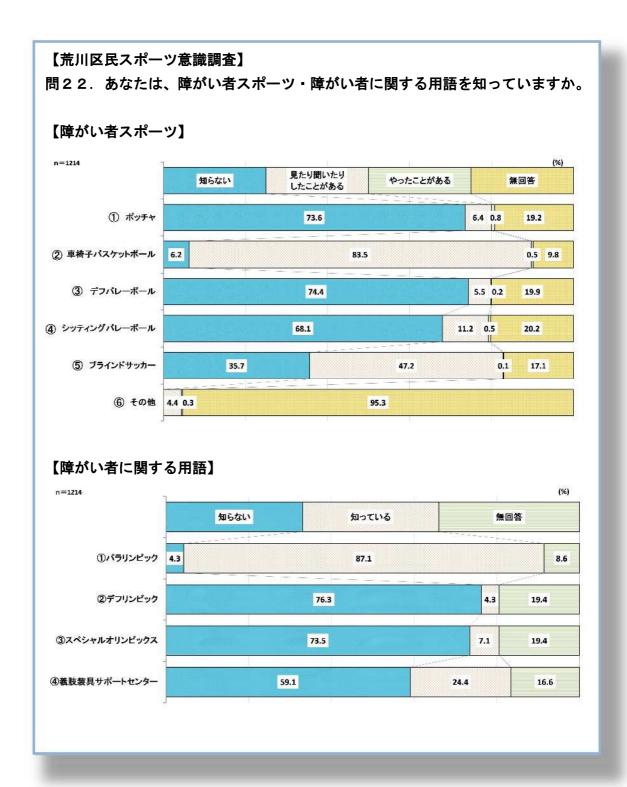
デフ (聴覚障害者) によるバレーボールをいい、チームメイトの声、審判の笛の音、ボールをはじく音などが聞こえない状態でプレーをします。コートや用具、競技形式など一般のバレーボールのルールと同じです。

シッティングバレーボール

シッティング(座ったまま)で、床に臀部(でんぶ)の一部が常に接触したまま行うバレーボールです。下肢に障がいのある方もできるスポーツです。

ブラインドサッカー

視覚障がい者が行うサッカーで、一般的なフットサルのルールに加え、アイマスクを着用して行うなど独自のルールがあります。 アイマスクで視覚を遮断して行うため、障がいの有り無しに関わらず、サッカーを楽しむことができます。



デフリンピック

4年に1度、世界規模で行われる聴覚障がい者のための総合スポーツ競技大会です。

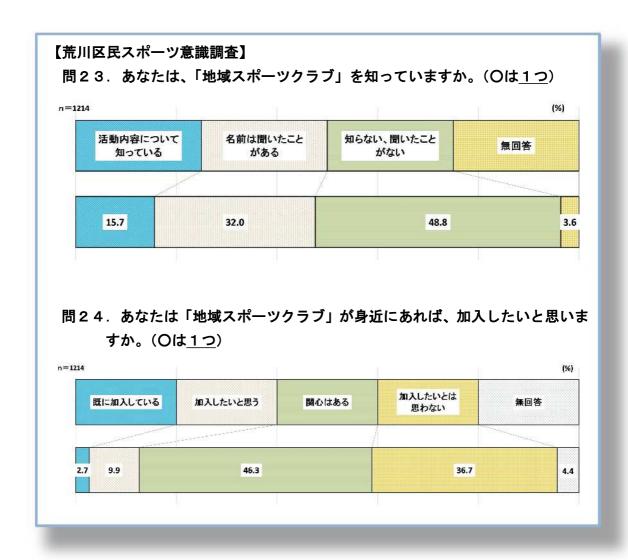
スペシャルオリンピックス

知的障がい者に様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ 組織をいい、知的障がい者を対象に4年ごとにスペシャルオリンピックス夏季・冬季世界大会を開催しています。

(6) 地域スポーツクラブについて

地域スポーツクラブについて知っている方(「活動内容について知っている」と「名前は知っている」と答えた方)と知らない方はどちらも5割弱となっています。

加入意向を聞いたところ、身近にあれば「加入したい」「関心はある」と回答した方は、あわせると5割を超えており、「加入したいと思わない」と回答した方と比べ19.5ポイントほど多くなっています。

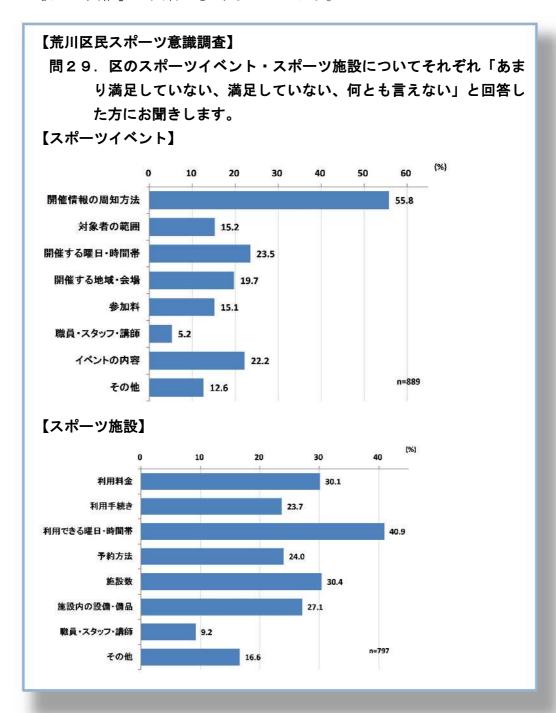


(7)区の施策・施設等

この1年間で区内のスポーツイベントに参加したことがあると回答した方は1割でした。一方、参加したことがないと回答した方が8割を超えており、改善点として「開催情報の周知方法」を選択した方が最も多くなっています。

区のスポーツ施設については、利用できる曜日や時間帯の改善を望む方が最も多くなっています。

このほか、スポーツ活動の活性化にあたり、どのような施策を行う必要があるかとの問いに、「健康・体力づくりの推進」「スポーツ施設の整備・充実」「初心者向けのスポーツ教室の開催」の回答が多くなっています。



3 スポーツ推進の課題

これまで示してきた区民のスポーツに係る意識や実態をはじめ、区のスポーツ施策の現状、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」や「都民のスポーツ活動に関する世論調査」等、国や都が実施している各種調査結果を踏まえ、今後荒川区全体で取り組むべきスポーツ推進施策の課題について、次のようにまとめました。

(1) スポーツに参加しやすい環境づくり

前述の調査結果にもあったように、運動不足を感じてはいても、仕事や育児等で 忙しくスポーツを行う時間がない方、体力や健康に自信のない方など、それぞれの ライフステージ、ライフスタイル、身体や体調の状況に応じて、様々なスポーツへ のニーズがあります。

また、スポーツイベントや施設を定期的に利用している方がいる一方、イベント や施設があることを知らない方も多くいる状況にあります。

スポーツを通じて、幸福で豊かな生活を送るうえで、誰でも参加できる場を用意 し、身近なスポーツ環境を整備することにより、区民の誰もが気軽にスポーツに親 しむことができるように、スポーツの裾野を広げることが重要です。

(2) スポーツを通した健康づくり

普段から運動する子としない子の二極化が全国的にも問題となっており、都の調査では荒川区の子どもたちの体力が、他区に比べ低い状況にあることがわかっています。

前述の調査結果からもわかるとおり、仕事や育児等で忙しい若い世代のスポーツ離れもあり、自分は健康であると思っている方も、運動不足やスポーツに親しむ機会が少ないことで病気やけがのリスクが高まるなど、健康寿命への影響も懸念されます。

大人になってスポーツや運動を始めるよりも、子どものころからの運動習慣を身に着けることで、20歳代、30歳代の若い世代のスポーツ離れを軽減できると考えます。

日常生活において運動しない「不活動」の状態を打破し、生涯健康で暮らせるよう体力の維持・向上を図るとともに、運動習慣をサポートするような施策が必要です。

(3) スポーツを支える人づくり

荒川区は、オリンピアンを始め全国や世界で活躍するトップアスリートを多く輩出してきました。子どもたちが身近にトップアスリートの存在を意識したり、トップアスリートと触れ合うことは、夢や希望を持ってスポーツや運動に取り組む大きな動機づけとなります。

アスリートを育成し、その活動を支援するためにも、指導員等の育成やレベルアップを図ることは重要です。

また、障がい者スポーツは、障がいのあるなしに関わらず、子どもから高齢者まで 様々な年代の方も取り組めるユニバーサルスポーツです。

障がい者スポーツを普及・促進させるためには、障がい者スポーツの認知度向上を 図り、介助者や伴走者、指導員やボランティアなどの支援を行う人材の発掘・育成が 重要です。

(4) スポーツを活用した地域コミュニティづくり

日ごろからスポーツや運動を行っていない方は、「忙しくて時間がない」などの理由でスポーツから遠ざかっている状況にある一方、日ごろからスポーツを行っている方の中にも一人で行っている方が多くいます。

また、障がい者は、学校卒業後は体を動かす機会が減少するケースも多く、障がい者にとってスポーツはリハビリテーションの効果だけでなく、外出やコミュニケーション機会の増加が期待できるものです。

全国的に核家族化やライフスタイルの多様化などから、人と人とのつながりが希 薄化していると言われるなか、スポーツ習慣を育み、スポーツの継続性を高めるた めにも、スポーツを通したコミュニティづくりが欠かせません。

コミュニティの活性化策として、多様なスポーツイベントの開催や地域スポーツ クラブの設立、スポーツボランティア活動や障がい者スポーツの認知度向上・普及 啓発の促進を通して、人と人とをつなぐ積極的なスポーツ活動の推進が重要です。



第3章 基本的な考え方

- 1 基本理念と基本目標
 - (1)基本理念
 - (2)基本目標
- 2 推進のキーワードとアプローチの視点
 - (1)推進のキーワード ~広げる・高める・つなぐ~
 - (2) アプローチの視点 ~する・みる・支える~
- 3 施策の体系と事業
 - (1) 体系図
 - (2)事業



▲少年運動場 (荒川リバーサイドマラソン)

第3章 基本的な考え方

1 基本理念と基本目標

(1) 基本理念

荒川区が目指すスポーツ振興の目的は、第1章でも述べたとおり、区の基本構想に 定めた区の将来像「幸福実感都市 あらかわ」の実現であり、スポーツは区民の健康 増進や生甲斐づくりをサポートし、「区民の幸福実感」を高めます。(「第1章 1プ ランの策定と背景」参照)

このことを踏まえて、本プランの基本理念を次のとおり定めます。

【 基本理念 】

すべての区民が 身近な地域でスポーツに親しみ スポーツの力を大きく育みながら スポーツで 人が まちが 未来が 輝く荒川区を創る



▲荒川リバーサイドマラソン

(2)基本目標

本プランにおいて達成すべき四つの基本目標を下記のとおり設定します。

基本目標 1 気軽にスポーツに親しめるようスポーツの裾野を広げる

誰でも参加できる場をつくり、身近なスポーツ環境を整えることで、区民が気軽 にスポーツに触れ、体験する機会や場の充実を図ります。

基本目標2 生涯健康で暮らせるようスポーツで健康増進を図る

区民の運動習慣をサポートし、スポーツを通じて体力の維持向上を図り、子どもから高齢者まで、生涯健康で暮らせるよう健康の増進を図ります。

基本目標3 スポーツのレベルアップのため選手や指導員を育成する

アスリートや指導員、ボランティア等の活動を支援、育成し、スポーツのレベル アップに繋げます。

基本目標4 地域の力を高めるため人や地域をスポーツでつなぐ

地域の力を高めるため、スポーツイベントの開催や団体等との連携を図り、人 や地域をスポーツでつなぎます。



▲ドッヂビーチャレンジ大会

2 推進のキーワードとアプローチの視点

(1) 推進のキーワード ~広げる・高める・つなぐ~

基本理念を踏まえ定めた基本目標を推進するため、「広げる」「高める」「つなぐ」の三つを、区におけるスポーツ推進のキーワードとします。

① 広げる

全ての区民が主役となって気軽にスポーツに親しめるよう、スポーツの裾野を 広げます。

② 高める

生涯健康で暮らせるよう、スポーツで体力向上や健康増進を図るとともに、選手や指導員の育成を通してスポーツのレベルアップを図ります。

③ つなぐ

荒川区が誇る地域の力を更に高めるため、区民相互の連携や地域交流を促進するよう、スポーツで人や地域をつなぎます。

(2) アプローチの視点 ~する・みる・支える~

スポーツへの関わり方は、人それぞれに違います。また、スポーツの楽しみ方も一つではありあせん。このことを踏まえて、「する」「みる」「支える」の三つを、区におけるスポーツ推進のためのアプローチの視点とします。

① する

体を動かしたり試合をしたりする爽快さや楽しさを知ることを通してスポーツ の習慣をつくるなど、スポーツをする視点からスポーツの推進を図ります。

② みる

スポーツを観戦する楽しみや、プロ選手の技術を学ぶ感動など、スポーツをみる視点からスポーツの推進を図ります。

③ 支える

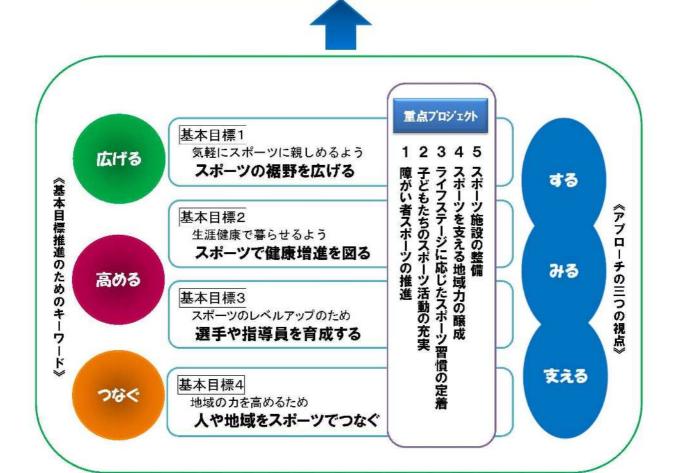
スポーツボランティアや応援団をはじめ、各種研修や指導員の育成など、スポーツ活動を支える視点からスポーツの推進を図ります。

幸福実感都市 あらかわ



基本理念

すべての区民が 身近な地域でスポーツに親しみ スポーツの力を大きく育みながら スポーツで 人が まちが 未来が 輝く荒川区を創る



3 施策の体系と事業

(1) 体系図

基本理念に基づく施策の体系図は次のとおりです。

基本理念

すべての区民が 身近な地域でスポーツに親しみ スポーツの力を大きく育みながら スポーツで 人が まちが 未来が 輝く荒川区を創る

≪推進のキーワード≫
広げる 高める つなぐ ★ する みる 支える

基本目標1 気軽にスポーツに親しめるようスポーツの裾野を広げる

施策(1) 誰でも参加できる場をつくる

【主な取組等】

- ・障がい者スポーツフェスティバル★
- ・荒川リバーサイドマラソン

施策(2) 身近なスポーツ環境を整える

【主な取組等】

- ・スポーツセンターの改修★
- ・運動場・多目的広場の整備★

基本目標2 生涯健康で暮らせるようスポーツで健康増進を図る

施策(1) 体力の維持向上を図る

【主な取組等】

- ・生涯スポーツの振興
- ・子ども達の運動能力アップ事業★

施策(2) 運動習慣をサポートする

【主な取組等】

- ラジオ体操の振興
- ·No!メタボチャレンジャー

★・・・・重点プロジェクトに係る事業



重点プロジェクト 1 障がい者スポーツの推進

重点プロジェクト 2 子どもたちのスポーツ活動の充実

重点プロジェクト 3 ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着

重点プロジェクト 4 スポーツを支える地域力の醸成

重点プロジェクト 5 スポーツ施設の整備

基本目標3 スポーツのレベルアップのため選手や指導員を育成する

施策(1) アスリート等を育成する

施策(2) 指導員等を育成する

施策(3) スポーツ活動を支援する

【主な取組等】

- トップアスリートによるスポーツ塾
- •都民体育大会選手団派遣

【主な取組等】

- ·障がい者指導員の育成★
- スポーツボランティアの育成★

【主な取組等】

- ・青少年スポーツ活動支援
- •部活動推進

基本目標4 地域の力を高めるため人や地域をスポーツでつなぐ

施策(1) 地域のスポーツを支援する

【主な取組等】

- ・体育協会への支援★
- ・総合型地域スポーツクラブへの支援

施策(2) 仲間づくりを応援する

【主な取組等】

- 区民ハイキング
- ・スポーツ団体への使用料減額制度

施策(3) 交流事業を推進する

【主な取組等】

- •区民体育大会
- ・友好都市とのスポーツ交流

(2) 事業

各基本目標と施策目標ごとに、事業等を整理します。

なお、表中の以下のマークは、各事業に該当する「推進のキーワード」と「アプローチの視点」を現します。





基本目標 1 気軽にスポーツに親しめるようスポーツの裾野を広げる

施策目標① 誰でも参加できる場をつくる

区民生活が心豊かなものとなるよう、区民に身近な場所で、気軽にスポーツに親しめる機会を提供します。

| | 事業等 | 内容 | 主体 |
|---|-------------|----------------------------|----------|
| 1 | 障がい者スポーツフェス | 広く区民に障がい者スポーツを知ってもらう | 区民、事業者、区 |
| | ティバル★ | とともに、障がい者にスポーツに親しむ機会 | |
| | | を提供し、運動への意欲を高め、2020年パ | |
| | 広高っ | ラリンピック東京大会に向けた気運醸成を図 | するみ支 |
| | | ります。 | |
| 2 | 荒川リバーサイドマラソ | 2・3・5・10kmのコース、2km ふれあいマラソ | 区民、事業者、区 |
| | | ンは、性別・年齢に関係なく参加可能で、 | |
| | | 区・教育委員会・実行委員会の共催により、 | |
| | 広高っ | 荒川河川敷(区営少年運動場)で実施しま | すりみり |
| | | す。 | |
| 3 | 体育の日記念行事 | 区内の体育施設を無料開放することで、気 | 事業者、区 |
| | | 軽にスポーツに参加できる場を提供します。 | |
| | | また、様々なスポーツに触れ合う機会を提供 | |
| | 広 | し、スポーツに対する理解と関心を深めま | व भ |
| | | す。 | |
| 4 | コミュニティスポーツの | スポーツ推進委員の指導により、ニュースポ | 区民、区 |
| | 普及 | ーツの魅力などを区民に伝え、生涯スポー | |
| | | ツの推進、区民の健康増進、スポーツ人口 | |
| | 広 ? | の拡大と区民相互の交流を図ります。 | व भ इ |

| 5 | スキー教室 | スキー連盟との共催により、スキー教室を実 | 区民、事業者、区 |
|---|---------------|-----------------------|-------------|
| | | 施し、区民のスキーに関する基礎技術の普 | |
| | 広高っ | 及と、健康増進、心身の健全な発達を図りま | व |
| | | す。 | |
| 6 | ハートの運動会 | 心身障がい者が仕事や生活訓練をするため | 区民、事業者、区 |
| | | に通う施設の合同運動会で、用具準備や審 | |
| | 広っ | 判等の競技ボランティアの募集も行います。 | すりまして |
| | FFD 3 22.5 38 | | |
| 7 | 駅からハイキング | JR東日本が主催する、駅から区内商店街や | 区民、事業者、区 |
| | | 観光スポットを散策するイベントで、誰もが気 | |
| | 広 2 | 軽にウォーキングに取り組め、また、区の知 | व |
| | | 名度アップや地域の活性化に寄与します。 | |
| 8 | 障がい者運動会支援 | 障がい者だけでなく家族の交流の場ともなっ | 区民、区 |
| | | ている、荒川区心身障害児者福祉連合会主 | |
| | | 催の「荒川区障害者大運動会」の実施を支 | |
| | 広っ | 援します。 | すみ 支 |
| | | | |



▲区民スキー教室



▲体育の日記念行事(卓球教室)

施策目標② 身近なスポーツ環境を整える

区民のスポーツ活動がより充実したものとなるよう、地域でスポーツを行える環境の整備を推進します。

| | 事業等 | 内容 | 主体 |
|---|------------------|-----------------------|-------|
| 1 | スポーツひろば | 区立小中学校の体育館を「スポーツひろば」 | 区民、区 |
| | | として開放し、区民に対するスポーツ習慣の | |
| | 広高っ | きっかけづくりとするための場を提供します。 | व इ |
| 2 | スポーツ機器用具の整 | スポーツ機器用具の整備や、運動場設備の | 区 |
| | 備 | 新設・改修により、区民の利用環境の充実を | |
| | 高 | 図ります。 | व इ |
| 3 | スポーツセンター事業 | 区民のスポーツの拠点施設として、スポーツ | 事業者、区 |
| | | することの爽快感・達成感を伝えることや、 | |
| | | 2020年の東京オリンピック開催に向けた、 | |
| | 広高っ | 区民のスポーツに対する機運を高めることに | すりみり支 |
| | | 寄与します。 | |
| 4 | スポーツセンターの改 修★ | 各種設備を更新し、施設全体のバリアフリー | 事業者、区 |
| | | 化や省エネルギー対策を進め、利用者への | |
| | 広高 | サービス向上とスポーツ施設としての機能強 | 支 |
| | 20 | 化を図ります。 | |
| 5 | スポーツハウス事業 | 区民のスポーツの拠点施設として、各種スポ | 事業者、区 |
| | | ーツや体力アップ等の教室を開催し、区民 | |
| | 広高っ | の健康維持・体力増強等に寄与します。 | व म इ |
| 6 | 運動場・多目的広場の | 区民がスポーツを楽しみ、体力アップや余暇 | 事業者、区 |
| | 整備★ | の充実を図ることのできる、運動場・多目的 | |
| | 広高っ | 広場を整備します。 | すみす |
| 7 | ふれあい館のスポーツ | あらゆる世代の区民が交流できる、地域コミ | 区民、区 |
| | 事業 | コニティの場として多くの方が参加しており、 | |
| | | 乳幼児向けから高齢者向けまで、様々なス | |
| | | ポーツ教室等の開催と、運動を行うことので | |
| | L | きる多目的室を開放します。 | व भ इ |

| 8 | ウオーキングロードの活 | 区内の道路・公園に整備したウォーキングロ | 区 |
|----|-------------|-----------------------|----------|
| | 用 | ードや、あらかわ健康ウォーキングマップを | |
| | | 活用し、ウォーキング講座を開催する等健康 | |
| | 広高っ | づくりを進めます。 | व प्र |
| 9 | 校庭利用運営 | 交通事故や不審者等の心配がなく、安全に | 区民、区 |
| | | 遊ぶことのできる場所として校庭を開放し、 | |
| | | 校庭利用指導員による安全な運動と遊びの | |
| | 広 | 指導、見守りの下で、児童がのびのびと活動 | すす |
| | | できるとともに、異年齢間の交流を促します。 | |
| 10 | 放課後子ども総合プラ | 学校施設の余裕教室などを活用し、地域の | 区民、区 |
| | ン等事業 | 参加・協力を得て、全ての子どもたちが放課 | |
| | | 後の安全な居場所で、遊び、勉強、スポー | |
| | 広 | ツ、文化活動等、様々な体験活動を行うこと | すす |
| | | ができます。 | |
| 11 | 公園改良事業 | テニスコートやウォーキングロード等、公園設 | 区民、事業者、区 |
| | | 備の改修や、バリアフリー化、そのほか新規 | |
| | 広 | 設備の設置等を行ない、公園における安全 | 支 |
| | | 性や快適性、利便性の向上を図ります。 | |
| | | | |



▲あらかわ遊園スポーツハウス (温水プール)



▲荒川総合スポーツセンター (弓道場)

基本目標2 生涯健康で暮らせるようスポーツで健康増進を図る

施策目標① 体力の維持向上を図る

子どもから高齢者まで、スポーツ活動を通じて、区民の体力の維持向上や健康の増進を図ります。

| | 事業等 | 内容 | 主体 |
|---|-------------|------------------------|----------|
| 1 | 生涯スポーツの振興 | 誰もが参加できるスポーツ教室やスポーツイ | 区民、事業者、区 |
| | | ベントなど、荒川区体育協会の事業を支援 | |
| | | する等、身近なところで楽しめる、生涯スポ | |
| | 広 | ーツの促進に取り組みます。 | するみを支 |
| | | | |
| 2 | 親子で体力アップ | 親子が楽しく気軽にできるイベントに参加す | 区民、事業者、区 |
| | | ることで、スポーツの楽しさを知ってもらうとと | |
| | | もに、現在の子どもの体力低下の現状と、そ | |
| | 本 2 | の背景にある生活習慣の乱れについて、参 | す |
| | | 加者が認識を深める効果を図ります。 | |
| 3 | ウオーキングの普及 | 正しいウオーキング知識を持った指導者の | 区民、区 |
| | | 養成講習会、幅広い年齢層が参加できるウ | |
| | 広高っ | オーキング大会等を実施し、ウオーキングの | す。 |
| | | 普及とスポーツ実施率の向上を図ります。 | |
| | | | |
| 4 | ころばん・せらばん・ば | 区民の方々にモニターとしてご協力いただ | 区民、区 |
| | ん座位体操 | き、荒川区と首都大学東京が共同開発した | |
| | | 体操で、健康推進リーダーが運営の中心と | |
| | 広 | なり、区内の公共施設等(ふれあい館等)で | す。 |
| | | 実施します。 | |
| 5 | 子ども達の運動能力ア | 運動好きな子どもを育てるとともに、生涯スポ | 区民、区 |
| | ップ事業★ | ーツを行うきっかけとして、地域のスポーツを | |
| | | 発掘・支援する「子どもスポーツパワーアップ | |
| | 広 つ | 事業」等を活用して、地域での取組として定 | すり |
| | | 着するよう支援します。 | |
| 6 | ぜんそく運動療法 | ぜん息の児童・生徒を対象に、水泳指導員 | 区 |
| | | によるグループ指導を行い、体力・運動能力 | |
| | | 向上による身体機能回復とともに、自信や積 | |
| | 広高っ | 極性を育み、自主的鍛錬の動機付けを図り | す |
| | | ます。 | |

| 7 | 高年者クラブ助成事業 | 区内各地域において、健康増進等の活動を | 区民、事業者、区 |
|---|------------|-----------------------|----------|
| | | 行っている高年者クラブに対し、その運営費 | |
| | | の一部を助成しているほか、NPO法人高年 | |
| | 広 | 者クラブ連合会に高齢者スポーツ普及事業 | す |
| | | を委託します。 | |
| 8 | 障がい者向け健康体操 | 体操を通して障がい者の健康づくりを促進 | 区民、事業者、区 |
| | 事業 | するために、障がい者やその家族、ヘルパ | |
| | | ー、ボランティア、事業所等を対象に、「荒川 | |
| | 広 2 | ばん座位体操」の、普及・啓発を行うことによ | すす |
| | | り、健康管理・健康維持を支援します。 | |



▲ウオーキングイベント



▲車いすバスケットボール教室

施策目標② 運動習慣をサポートする

生涯健康で暮らせるよう、区民が定期的に運動に取り組み、習慣化するためのサポートを行います。

| | 事業等 | 内容 | 主体 |
|---|---------------|------------------------|-------|
| 1 | ラジオ体操の振興 | 夏季ラジオ体操の振興を図るため、区内の | 区民、区 |
| | | 小中学校校庭や公園等において、全区民に | |
| | | 参加を呼びかける、ラジオ体操中央大会を | |
| | | 実施するほか、ラジオ体操指導者養成講習 | |
| | 広 つ | 会の実施により、正しいラジオ体操の普及を | व इ |
| | | 図ります。 | |
| 2 | No!メタボチャレンジャー | 運動習慣や食生活改善に継続して取り組む | 区民、区 |
| | | No!メタボチャレンジャーを募集し、チャレ | |
| | | ンジの経過をホームページ等で公表すること | |
| | 広 | で、健康づくりを広く区民にPRし、健康づく | 支 |
| | | りへの関心を高めます。 | |
| 3 | 糖尿病対策推進事業 | 区民が、糖尿病を予防し、また糖尿病になっ | 事業者、区 |
| | | た場合でも病状を進行させないために、糖 | |
| | | 尿病栄養相談の実施や栄養、運動指導を | |
| | 広 | 受けながら実践する健康づくりプログラム | 支 |
| | | 等、様々な事業を行います。 | |
| 4 | 公衆浴場需要喚起対策 | スポーツ大会に参加した子どもに入浴券を | 事業者、区 |
| | 補助事業(少年スポー | 配布する「少年スポーツ大会応援事業」や、 | |
| | ツ大会応援事業・フィッ | 入浴の前に体操を実施する「フィットネス in | |
| | トネス in 銭湯) | 銭湯」など地域住民のコミュニケーションの | |
| | | 場である銭湯で、区民の交流と健康増進を | |
| | 広 | 図ります。 | す。 |
| | | | |



▲ラジオ体操指導者養成講習会

基本目標3 スポーツのレベルアップのため選手や指導員を育成する

施策目標① アスリート等を育成する

スポーツ活動の成果を発揮する場を設けるとともに、アスリート等の育成を図ります。

| | 事業等 | 内容 | 主体 |
|---|--------------|-------------------------|----------|
| 1 | トップアスリートによるス | 元スポーツ選手等を指導者に招き、小中学 | 区民、事業者、区 |
| | ポーツ塾 | 生を対象としたスポーツ教室を開催し、技術 | |
| | | のレベルアップと、2020年オリンピック・パラ | |
| | 高っ | リンピック東京大会に向けての気運を高めま | するみ支 |
| | | す。 | |
| 2 | 都民体育大会選手団派 | 大会に選手を派遣することで、各競技技術 | 区民、区 |
| | 造 | 水準の向上を図ります。また、代表選手団の | |
| | 高っ | 結団式を開催するなど、区代表選手としての | すりみり |
| | | 意識と団結力を高めます。 | |
| 3 | 城北五区親善大会 | 豊島・北・板橋・練馬・荒川の五区の代表 | 区民、区 |
| | | 選手による親善試合を開催し、城北地区の | |
| | 高っ | スポーツの振興と各区の親善、また、競技の | व भ इ |
| | | 向上を図ります。 | |
| 4 | 区民体育大会 | 荒川区•荒川区教育委員会•荒川区体育協 | 区民、事業者、区 |
| | | 会が主催となって運営し、区民のスポーツ活 | |
| | 高っ | 動の成果を発揮する機会を設けるとともに、 | व स क |
| | la la | 区民相互の交流を深めます。 | |
| 5 | 東京都釣魚大会派遣 | 荒川区の代表選手を東京都釣魚大会に派 | 区民、区 |
| | | 遣、支援することにより、区民の技術向上、 | |
| | 高っ | 相互交流を深めます。 | すみ支 |
| | | | |



▲元プロスポーツ選手によるレベルアップ塾

施策目標② 指導員等を育成する

スポーツを支える人を育て、スポーツへ取り組む環境の向上を図ります。

| | 事業等 | 内容 | 主体 |
|---|-------------|-----------------------|----------|
| 1 | スポーツ推進委員の研 | 区内のスポーツ普及の中核を担うスポーツ | 区民、区 |
| | 修 | 推進委員に対して、スポーツの実技研修の | |
| | | みならず、推進者としての役割や、ニュース | |
| | 広高っ | ポーツの導入に向けて、充実した内容の研 | 支 |
| | A | 修会を充実します。 | |
| 2 | 障がい者指導員の育成 | 地域で活動する障がい者スポーツの指導 | 区民、区 |
| | * | 員を育成し、障がい者に対しスポーツの | |
| | | 導入を支援したり、障がい者スポーツの | |
| | 広高っ | 指導等を通して、障害者スポーツの振興 | 5 |
| | TA IN | を図ります。 | |
| 3 | スポーツボランティアの | スポーツ推進員を始めとし、様々な形で区の | 区民、区 |
| | 育成★ | スポーツの普及、区民のスポーツ活動の促 | |
| | | 進に携わる、スポーツボランティアを育成し、 | |
| | 広 2 | 区のスポーツ振興を図ります。 | する |
| | | | |



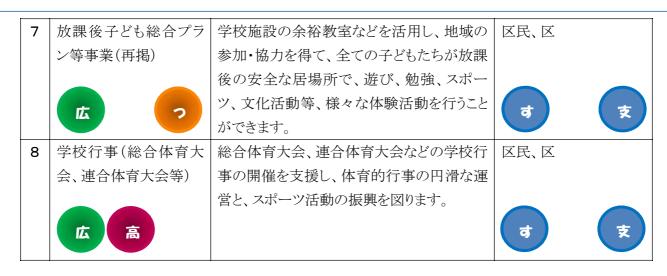


▲スポーツ推進委員自主研修会

施策目標③ 活動を支援する

スポーツに関する活動をより一層推進し、区民のスポーツ活動の活性化を図ります。

| | 事業等 | 内容 | 主体 |
|---|------------|------------------------|----------|
| 1 | 青少年スポーツ活動支 | 地域の代表として全国大会等へ出場する区 | 区民、事業者、区 |
| | 援 | 内青少年スポーツ競技の個人またはスポー | |
| | | ツ団体に対し、必要経費等の支援をすること | |
| | | により、青少年のスポーツ活動を奨励・促進 | |
| | 高っ | し、発展に寄与します。 | व भ द्र |
| 2 | 部活動推進 | 区立中学校の部活動の推進や各種大会へ | 区 |
| | | の参加を支援し、部活動を充実させることに | |
| | | より、知性や感性、道徳心、体力を育み、人 | |
| | | 間性豊かな成長とそれぞれの個性を伸ばし | |
| | 広高っ | ます。 | व स द्र |
| 3 | 国際大会出場支援 | スポーツの国際大会に参加を支援すること | 区 |
| | | によって、区における競技力の向上を図ると | |
| | | ともに、スポーツに関わる様々な活動への支 | |
| | | 援及びスポーツ活動の区内外への周知に | |
| | 高っ | 寄与します。 | व भ इ |
| 4 | 教育褒賞 | 文化・スポーツに関する行事や大会におい | 区 |
| | | て優秀な成績を収めた児童、生徒、学校教 | |
| | | 育、社会教育関係者等に対し、教育委員会 | |
| | 高 | が褒賞を行い、区の文化活動・スポーツ活 | 支 |
| | A | 動等の振興を図ります。 | |
| 5 | 研究指定校 | オリンピック・パラリンピック教育推進校を指 | 区 |
| | | 定し、児童・生徒が、スポーツにより心身の | |
| | | 調和的な発達と、オリンピック・パラリンピック | |
| | | の歴史・意義や国際親善などその果たす役 | |
| | 広高っ | 割を正しく理解することに寄与します。 | व स इ |
| 6 | 区功労者表彰 | スポーツ活動を含め、区の振興・発展に特に | 区民、区 |
| | | 功労があった方々に対して、区として感謝と | |
| | | 敬意を表するものです。 | |
| | 広 | | 支 |







▲荒川区立中学校連合体育大会

基本目標4 地域の力を高めるため人や地域をスポーツでつなぐ

施策目標① 地域のスポーツを支援する

地域のスポーツイベントや組織と連携し、活動を支援することで、地域スポーツの活性化を図ります。

| | 事業等 | 内容 | 主体 |
|---|-------------|-----------------------|----------|
| 1 | 体育協会への支援★ | 区内の社会体育団体を統括する荒川区体 | 区民、区 |
| | | 育協会の事業等の支援をするとともに、法人 | |
| | (E) | 化に向けて協力支援します。 | 支 |
| 2 | 総合型地域スポーツク | 地域に根ざした総合型地域スポーツクラブ | 区民、区 |
| | ラブへの支援 | の設立に向けて、荒川区体育協会を対象に | |
| | | 研修会や視察などを通じて支援を行い、区 | |
| | 広高っ | 内の総合型地域スポーツクラブ設立のため | व इ |
| | | の支援を図ります。 | |
| 3 | 地域のスポーツイベント | 誰もが参加できるスポーツ教室やスポーツイ | 区民、事業者、区 |
| | への支援 | ベントなどの事業や、区民・団体が実施する | |
| | | スポーツ関連事業を支援し、地域の活性化 | |
| | 本 つ | を図ります。 | व भ इ |
| 4 | 駅からハイキング(再 | JR東日本が主催する、駅から区内商店街や | 区民、事業者、区 |
| | 掲) | 観光スポットを散策するイベントで、誰もが気 | |
| | | 軽にウォーキングに取り組め、また、区の知 | |
| | 広 ? | 名度アップや地域の活性化に寄与します。 | व |
| 5 | 青年団体連合会活動支 | 青年団体が行うスポーツ大会等の団体の交 | 区民、事業者、区 |
| | 援 | 流事業をはじめ社会教育関係事業を支援し | |
| | | ます。 | |
| | 広 つ | | व प्र |

施策目標② 仲間づくりを応援する

スポーツ活動を通じた地域コミュニティづくりの場を提供し、仲間づくりを支援します。

| | 事業等 | 内容 | 主体 |
|---|------------|-----------------------|----------|
| 1 | 区民ハイキング | 区民が自然に親しみながら、心身の健康増 | 区民、事業者、区 |
| | | 進に役立つことを狙いとし、荒川区と荒川区 | |
| | | 民ハイキング実行委員会が主催となり、春・ | |
| | 広っ | 秋のハイキングを実施します。 | व इ |
| 2 | スポーツ団体への使用 | 区内スポーツ団体が区の体育施設等を使用 | 区民、区 |
| | 料減額制度 | する際の使用料を減額することで、施設利 | |
| | | 用者数の増加や、区民のスポーツに対する | |
| | 喜っ | 気運を高めることに寄与します。 | व इ |
| | IA, | | |
| 3 | ふれあい館のスポーツ | あらゆる世代の区民が交流できる、地域コミ | 区民、区 |
| | 事業(再掲) | ュニティの場として多くの方が参加しており、 | |
| | | 乳幼児向けから高齢者向けまで、様々なス | |
| | | ポーツ教室等の開催と、運動を行うことので | |
| | 広っ | きる多目的室を開放します。 | व भ इ |
| 4 | 障がい者運動会支援 | 障がい者だけでなく家族の交流の場ともなっ | 区民、事業者、区 |
| | (再掲) | ている、荒川区心身障害児者福祉連合会主 | |
| | | 催の「荒川区障害者大運動会」の支援をしま | |
| | 広 2 | す。 | するみ友 |
| | | | |
| 5 | 防災運動会 | 家族で参加でき、楽しみながら防災の知識・ | 区民、区 |
| | | 技術が学べる競技や、中学校防災部による | |
| | | 対抗レースなど、防災部の活動成果を発揮 | |
| | 広高っ | できる競技を実施し、地域コミュニティの強 | व अ इ |
| | | 化を図ります。 | |

施策目標③ 交流事業を推進する

区内外での交流事業を推進し、スポーツによる様々なつながりを創出します。

| | 事業等 | 内容 | 主体 |
|---|-------------|-----------------------|----------|
| 1 | 区民体育大会(再掲) | 荒川区·荒川区教育委員会·荒川区体育協 | 区民、事業者、区 |
| | | 会が主催となって運営し、区民のスポーツ活 | |
| | 高っ | 動の成果を発揮する機会とし、区民相互の | するみを支 |
| | IA. | 交流を深めます。 | |
| 2 | 友好都市とのスポーツ | 友好都市である「つくば市」等のスポーツ団 | 区 |
| | 交流 | 体と荒川区のスポーツ団体との交流試合を | |
| | | 行い、スポーツ面での交流を深めるととも | |
| | 広高っ | に、スポーツ交流を通じて、荒川区のスポー | するみ支 |
| | | ツ団体の競技力の向上を図ります。 | |
| 3 | コミュニティスポーツの | ニュースポーツの指導にスポーツ推進委員 | 区民、区 |
| | 普及(再掲) | を派遣することにより、ニュースポーツの魅力 | |
| | | などを区民に伝え、生涯スポーツの推進、区 | |
| | 広 | 民の健康増進、スポーツ人口の拡大と区民 | するみ支 |
| | | 相互の交流を図ります。 | |
| 4 | 海外都市交流事業 | スポーツや産業・観光・芸術文化などの広範 | 区民、事業者、区 |
| | | な分野にわたる交流を深め、海外都市に対 | |
| | | する区民の関心を高めるとともに、日本や荒 | |
| | | | するみ、支 |
| | | ます。 | |



▲区民体育大会(水泳競技会)



▲ドッヂビーチャレンジ大会



第4章 重点プロジェクト

- 1 障がい者スポーツの推進
- 2 子どもたちのスポーツ活動の充実
- 3 ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着
- 4 スポーツを支える地域力の醸成
- 5 スポーツ施設の整備



▲東尾久運動場庭球場

第4章 重点プロジェクト

四つの基本目標を達成するため、五つの「重点プロジェクト」を定め、荒川区におけるスポーツ活動を積極的に推進します。

1 障がい者スポーツの推進

荒川区では障がい者スポーツの推進に向け、指導者の育成やスポーツイベントの支援など、様々な取組を実施してきました。こうしたなか、2020年に東京でパラリンピックが開催されることを好機と捉え、これまでの取組に加えて、障がい者スポーツを広く普及し、障がい者スポーツをサポートする体制を整備・強化していくことが必要です。障がい者スポーツの振興により、スポーツを通じた障がい者の社会参加を促進し、障がい者に対する理解を深め、スポーツを支える地域づくりに取り組みます。加えて、障がい者スポーツは、障がいの有無に関わらず、小さな子どもから高齢者まで気軽に楽しめるスポーツです。生涯スポーツ振興の観点からも、誰もが、いつでも、どこでも参加できるユニバーサルスポーツ事業の展開を目指し、広く普及を図ります。

■具体的な取組の方向

(1) 障がい者スポーツの普及

障がいの有無に関わらず、全ての区民を対象として、障がい者スポーツの紹介や 障がい者スポーツの体験教室の実施、障がい者アスリートの活躍をPRするイベン トを実施します。

【主な事業】障がい者スポーツフェスティバル、障がい者スポーツ教室

(2) 障がい者スポーツを支える仕組みづくり

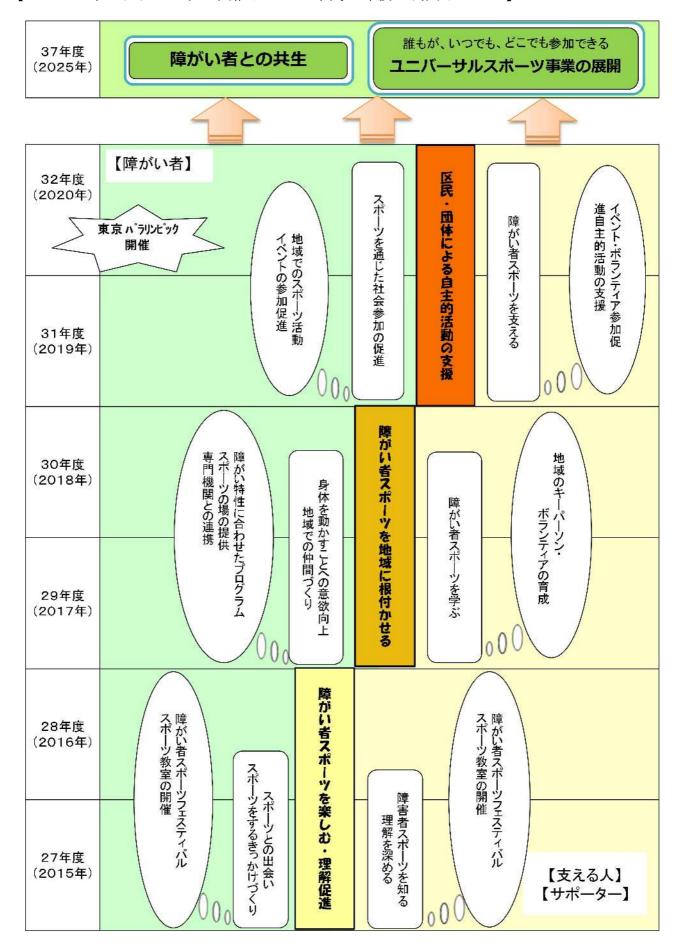
障がい者スポーツに関する基礎知識を持つ人材を育成し、障がい者スポーツの普及とスポーツを行う障がい者のサポート体制を整えます。あわせて、区民による自主的なスポーツイベントの開催や障がい者スポーツをサポートする区民・団体等を支援する仕組みづくりを進めます。

【主な事業】障がい者スポーツ指導員等の育成、スポーツボランティアの育成

■指標

| No. | 指標 | 現状値 | 目標値 |
|-----|----------------|------------|------------|
| 1 | 障がい者スポーツへの関心度 | 39.3% | 5 0 % |
| | | (平成 27 年度) | (平成 37 年度) |
| 2 | 障がい者スポーツサポーター数 | _ | 200人 |
| | | (平成 27 年度) | (平成 37 年度) |

【2020年パラリンピック開催までの5年間と今後の展開イメージ】



2 子どもたちのスポーツ活動の充実

子どもたちの体力低下や運動をする子しない子の二極化は、荒川区においても大きな課題となっています。スポーツトレーニングに最も適していると言われる、ゴールデンエイジ(主に9歳から12歳頃)を意識しつつ、子どもたちの各年齢層に合わせたスポーツ活動の充実を図り、運動能力や技術の向上を図ります。

幼少期にスポーツに親しみ、楽しむ習慣を身につけることで、向上心や克己心などの育成・向上、達成感や助け合いの心など、豊かな心を育むとともに、成人してからもスポーツ習慣を形成・継続することが期待できることから、学校等とも連携しながら取組の充実を図ります。

■具体的な取組の方向

(1) 保育園・幼稚園・小中学校におけるスポーツ活動の充実

子どもの基礎体力を向上させ、心身ともに健康な生活を送ることができるよう、活動的な生活スタイルづくり推進するとともに、オリンピック・パラリンピックの意義を学び、国際理解・国際平和や障がい者に対する理解を深めるための取組を実施します。

【主な事業】戸外活動の充実(幼稚園)、小学校におけるウオーキング等の運動の 日常化に向けた取組、部活動の充実、オリンピック・パラリンピック 理解事業

(2) スポーツに親しむ場・機会の提供

スポーツへの関心を高め、体力・技術の向上へとつなげるため、子どもたちが気軽にスポーツに親しむことのできる場や機会の更なる充実に取り組みます。

年齢や性別・運動能力に関わらず、誰もが参加し、楽しむことのできるニュースポーツの普及についても継続的に取り組み、スポーツ実施率の向上を図り、子どもたちの交流を促進します。

【主な事業】スポーツひろば、コミュニティスポーツの普及

(3) 子どもたちの運動能力の向上

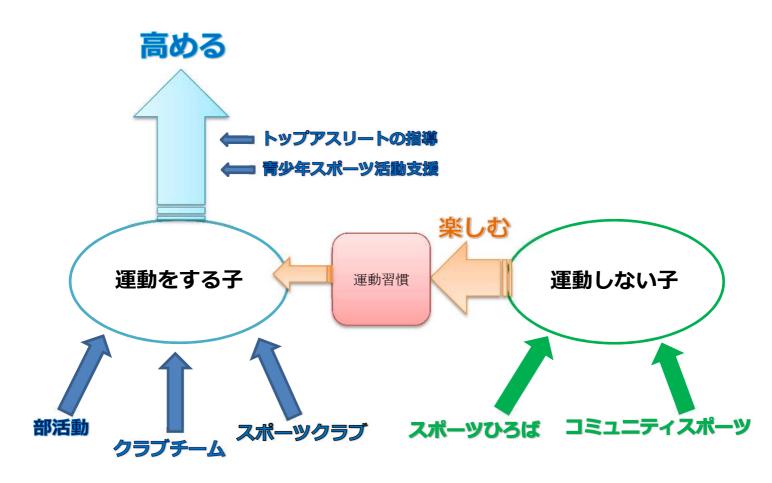
子どもたちが、トップアスリート等よりレベルの高い指導を受ける機会を増やすなど、子どもたちの体力・運動能力・技術の向上を図ります。また、地域の団体等が実施する同様の事業に対しても適切な支援を行い、地域や学校と連携して取組を推進します。

【主な事業】部活動の推進、子どもたちの運動能力アップ事業、トップアスリート によるスポーツ塾、青少年スポーツ活動支援、国際大会出場支援

■指標

| No. | 指標 | 現状値 | 目標値 |
|-----|------------|-------------|-------------|
| 1 | オリンピック・パラリ | 7 校 | 全校 |
| | ンピック理解事業の実 | (平成 2 7 年度) | (平成37年度) |
| | 施校 | 一(平成2~午及) | (半成37年度) |
| 2 | 子どもたちの運動能力 | 男子 19位/23区中 | 男子 12位/23区中 |
| | (東京都調査・小学6 | 女子 13位/23区中 | 女子 10位/23区中 |
| | 年生) | (平成26年度) | (平成37年度) |

【子どもたちのスポーツ活動への支援イメージ】



3 ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着

体力や年齢、運動能力や目的など、区民のスポーツニーズは多様化しています。区 民一人一人がスポーツに親しみ、いつまでもスポーツを楽しむことのできる環境を整 えることが必要です。

幼年期から青年期は基礎的な体力や運動能力を身に着け、スポーツの楽しさを学び、競技中心のスポーツライフを送ります。壮年期から中年期は、競技スポーツ、趣味としてのスポーツに二分される一方で、スポーツに触れる機会が減少する時期となります。高年期は、体力の衰えが顕著となる一方で、時間を有効に活用し、健康づくりや仲間づくりの要素を踏まえてスポーツを楽しむことのできる時期です。

こうした、区民の各ライフステージに応じたスポーツ活動を支援する、場所・機会の充実を図り、区民の生涯にわたるスポーツとの関わりを充実します。

■具体的な取組の方向

(1) スポーツ習慣の定着

身近な場所で気軽にスポーツを楽しむことができるよう、スポーツ教室の開催やイベント等の充実を図るとともに、手軽にできるスポーツの普及・啓発に取り組みます。また、企業や事業所と連携した、職場における運動の実施についても推奨します。

【主な事業】スポーツひろば、生涯スポーツの振興、ウオーキングの普及、 親子で体力アップ事業

(2) 高齢者のスポーツ振興

体力の維持・向上により健康の増進を図り介護予防にもつなげるとともに、仲間づくりや生きがいづくりのきっかけともなるよう、高齢者がより多くのスポーツに親しみ、楽しむことのできる機会の充実を図ります。

【主な事業】ころばん・せらばん・ばん座位体操、ウオーキングの普及

(3) スポーツ・健康づくりに関する情報提供の充実

健康づくり、子育て、高齢者・障がい者福祉等の関係部署と連携し、事業展開を 図るとともに、スポーツや健康に関する事業・各種教室・健康に関する情報などを 収集・管理し、広報・ホームページなど様々な媒体で提供します。

【主な事業】広報の充実

■指標

| No. | 指標 | 現状値 | 目標値 |
|-----|----------------|----------|----------|
| 1 | スポーツ実施率(週1回以上ス | 38.8% | 5 0 % |
| | ポーツをしている) | (平成27年度) | (平成37年度) |

ライフステージとスポーツの関わり

ライフステージ 活動例•感情 親子遊び・手歌遊び 乳児 幼 楽しい 年 嬉しい 期 外遊び・集団遊び 幼児 競争心 走る・跳ぶ・投げる 少年 悔しい などの全身運動 小学生 向上心 期 達成感 学校体育・ 運動部活動 中学生 スポーツする子・ しない子の二極化 意 高校生 大学生 期 趣味としての ·向上心 スポーツ ・競争心 競技としての 克己心 壮年期 スポーツ 子育て期 スポーツ離れ 働盛り 中年 世代 期 介護予防、 ・楽しい

スキンシップ・仲間との交流を 通じてスポーツへの動機づけ。

日的 • 課題

学校・地域・家庭での様々な遊びを中心とした運動・スポーツにより、基礎的な体力や運動能力を身につける。仲間づくり。

身体機能がピークに達し、高度 な技術・限界へ挑戦することが 可能であり、競技を中心とした スポーツライフを送る時期。

趣味として始めたり、学生時代の部活動から引き続きスポーツを継続する人がいる一方で、卒業・就職・結婚・出産等の環境の変化でスポーツの機会が減少する時期でもあるため、環境の変化に対応した新たなスポーツ習慣の形成が重要。

加齢に伴う身体的な衰えが顕著になり、体力・運動能力の低下はあるが、時間を有効活用し、運動・スポーツを楽しむことのできる時期であるが、健康に対する不安や一人をいためにも、健康づくりに心がけ、主体的な行動が重要。

生涯にわたるスポーツとの関わりの充実 (不活動の打破)

•満足感

趣味・サークルを

スポーツの指導・

ボランティア活動(社会貢

通じた交流、

献)

高齢者

高年期

4 スポーツを支える地域力の醸成

区民が主体的にスポーツに取り組むことにより、生涯スポーツ社会の実現につながります。そのためには、地域のスポーツを支える力の醸成が重要です。

スポーツは、プレーするだけでなく、観戦したりスポーツイベントを支える活動 も含め、様々な関わり方があります。

「アプローチの視点」として示した「する」「みる」「支える」を念頭に置き、スポーツを地域で支える力を育み、区民のスポーツ実施率・技術の向上、健康増進を図るとともに、スポーツによるコミュニティの活性化を目指します。

■具体的な取組の方向

(1) 指導員・ボランティアの育成とネットワークの構築

地域のスポーツリーダーである熱意と能力のあるスポーツ推進委員を中心に、スポーツ指導員の更なる育成とレベルアップを図ります。また、障がい者スポーツを始めとするスポーツボランティア等を育成する仕組みづくりを行い、各スポーツリーダーのネットワーク化を図ります。

【主な事業】スポーツ推進委員、障がい者スポーツ指導員の育成、 スポーツボランティアの育成

(2) 地域団体との連携・適切な支援

スポーツコミュニティの中心となる団体等と連携を図り、区民が主体的に参画する地域のスポーツクラブの育成を推進し、地域の実情に応じたきめ細やかなスポーツ環境の整備を支援します。

【主な事業】荒川区体育協会への支援、総合型地域スポーツクラブへの支援

(3) 区・区民・地域の協働

区民・各団体等との協働によりスポーツイベントを実施することを基本とし、区 民やスポーツ団体等の主体的な活動を促進します。

【主な事業】荒川リバーサイドマラソン、地域のスポーツイベントへの支援

■指標

| No. | 指標 | 現状値 | 目標値 |
|-----|----------------|-------------|----------|
| 1 | スポーツイベントへのボランテ | 190人 | 500人 |
| | ィアの参加人数 | (平成27年度) | (平成37年度) |
| 2 | スポーツボランティア登録数 | | 200人 |
| | | (平成27年度) | (平成37年度) |

5 スポーツ施設の整備

区民の誰もが気軽にスポーツに親しむことができ、スポーツを通じて生涯健康に暮らせるように、スポーツ施設等の整備・充実を図ります。

スポーツ施設は選手の指導やボランティア等としてスポーツを支える活動拠点となり、スポーツを通じて人と人との交流を図る場としても重要です。また、公園等の身近な場所を活用してスポーツや運動ができる街づくりを進めます。

■具体的な取組の方向

(1) 区立スポーツ施設の大規模改修

築31年となる区立荒川総合スポーツセンターは、配管等の給排水設備を始め空 調設備や照明設備等の改修が必要な時期に来ており、利用者や利用団体に配慮し最 適な工法により改修を実施します。

【主な事業】荒川総合スポーツセンターの大規模改修

(2) スポーツ施設等の充実

荒川河川敷の少年運動場を拡張し、サッカーができる芝生の運動場を整備すると ともに、東尾久運動場多目的広場を拡張し、競技スペースの拡大を図ります。

また、ウオーキングやジョギングなどの軽スポーツができる街づくりを進めます。

【主な事業】扇大橋福祉体験ひろば跡整備、東尾久運動場多目的広場整備、 あらかわ健康ウォーキングマップの作成、ウオーキング教室、 (仮称) 宮前公園の整備

(3)スポーツ施設の運営方法の検討

利用者の多様なニーズに応えるため、民間事業者等のノウハウとスケールメリットを活かした区立スポーツ施設の運営方法の見直しを進めます。

【主な事業】荒川遊園スポーツハウスの指定管理者制度導入の検討



第5章 プランの推進に向けて

- 1 区民・団体・事業者等との連携
- 2 推進体制の充実
- 3 プランの着実な実行



▲南千住野球場

第5章 プランの推進に向けて

1 区民・団体・事業者等との連携

荒川区の財産である地域力は、本プランの確実な実施に欠かせません。区民のスポーツ活動推進の原動力となるスポーツ推進委員や体育協会等各種団体の力を最大限活用するため、区はこれまで以上に連携を強化していきます。

また、事業者を含め、本プランを推進するうえでの役割を明確にし、相互に連携を 図りながら、区民の主体的なスポーツ活動への参加を進めていきます。

(1) スポーツ団体との連携

荒川区には、区民のスポーツの普及及び推進を図るために指導、助言を行う荒川区スポーツ推進委員会や荒川区体育協会を始め様々なスポーツ団体があり、それぞれの団体が活発に活動することで区民のスポーツ振興に大きな役割を果たしています。今後は更に連携を強化し、協力して区民スポーツの振興を図ります。

加えて、障がい者団体及び障がい者スポーツ団体と連携を取りながら、子どもから 高齢者まで、誰もが親しめるのがユニバーサルスポーツである、障がい者スポーツの 普及を図ります。

また、社会教育関係団体として、自主的にスポーツを行う団体は、平成28年4月 1日現在481団体の登録があり、多様な競技団体とも積極的な連携を図ります。

(2)大学・研究機関等との連携

公立大学法人首都大学東京の首都大学東京荒川キャンパスと東京都立産業技術高等専門学校の二つのキャンパスとの連携により、体育館やグラウンド等のスポーツ施設の区民利用を促進するほか、両キャンパスの専門分野である福祉や医療等、スポーツ以外の分野でも積極的に連携し、区民生活の向上を進めます。

加えて、障がい者の義足などの義肢や装具を作成し、リハビリテーションを行う専門組織であり、障がい者アスリートを支援している、公益財団法人鉄道弘済会義肢装具サポートセンターと、障がい者及び障がい者スポーツへの理解促進のため、更なる連携を進めます。

また、区内にある公益財団法人日本分析センターアンチ・ドーピング研究所では、 スポーツの理念や価値を損なうだけでなく、健康を害する恐れもあるドーピングの研 究をしており、連携を検討していきます。

(3) 民間スポーツ施設との連携

区内で営業する民間スポーツ施設は、荒川総合スポーツセンターなどとは設備や利用時間、利用対象者などが異なることから、役割を明確にするとともに、身近にスポーツに親しめる場を提供するという観点から、情報交換など連携を検討していきます。

2 推進体制の充実

2020年に東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、スポーツを取り巻く環境は刻々と変化していきます。本プランの着実な推進を図るため、区の組織が一丸となって取り組む体制を整えます。

また、プランの進捗管理については、平成26年度に設置した、区民の代表と有識者で構成する、スポーツ振興区民会議の皆様を軸に、今回プラン策定にご尽力いただいた、荒川区スポーツ推進プラン策定委員を加え、(仮) 荒川区スポーツ推進会議を設置し、報告させていただきます。推進会議の皆様にご意見を頂戴しながら進捗を図ってまいります。

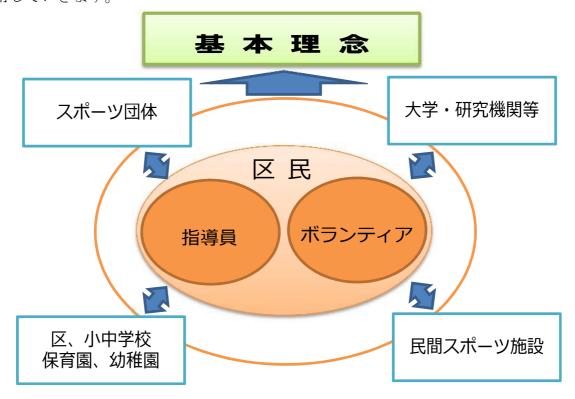
3 プランの着実な実行

(1) 基本目標と重点プロジェクトの進行管理の徹底

第Ⅲ章で示した四つの基本目標を達成するため、第Ⅳ章で掲げた五つの重点プロジェクトについては、このプランが目指す方向性を具体的な形で表すものとして、早期に実行し、この成果を公開することとします。

(2)情報の積極的公開

プランの推進状況、プロジェクトの進捗状況などについては、スポーツ振興区民会議に報告するとともに、適宜・積極的に情報を公開し、区民の意見や提案を受け止める仕組みをつくります。なお、公開にあたっては、ホームページや冊子のほか、ツイッター、フェイスブック等、最新のソーシャルネットワークサービス(SNS)を活用していきます。



資料編

- 1 荒川区民スポーツ意識調査
- 2 荒川区スポーツ推進プラン策定委員会設置要綱
- 3 荒川区スポーツ推進プラン策定委員会委員名簿
- 4 検討経過

1 荒川区民スポーツ意識調査

1 調査の概要

(1)調査区域 荒川区全域

(2) 母集団 荒川区にお住いの18歳以上の男女(住民基本台帳による)

(3) 標本数 2,500標本

(4) 調査期間 平成27年5月21日~平成27年6月7日

(5)調査方法 郵送配付・郵送回収

2 回収結果

(1) 標本数 2,500件

(2) 有効回収数 1,214件(回収率48.6%)

3 調査結果の見方

(1) 図中の「n」は、その設問の回答者数を表している。

- (2)集計は、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答率を合計しても、100%にはならず、1%の範囲で増減することがある。
- (3)回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (4) 本文やグラフ・数表上の選択肢表記は、場合によって語句を簡略化してある。
- (5)集計に際して使用した属性項目は、①居住地域、②性別、③年齢別である。
- (6) 分析軸に使用した属性項目は、無回答を除いてあるため、各属性の件数の合計が全体件数 と一致しないことがある。
- (7)集計は、すべて単純集計、属性別クロス集計を行った。また、分析の必要に応じて設問間 のクロス集計を行った。
- (8) 属性別の分析については、全体平均と比べ、統計的に有意差のあるものを中心にふれている。図表上で数値が高いものでも、有意性がなく分析でふれていない場合がある。
- (9) この調査の標本誤差は、おおよそ下記の計算式により算出できる。

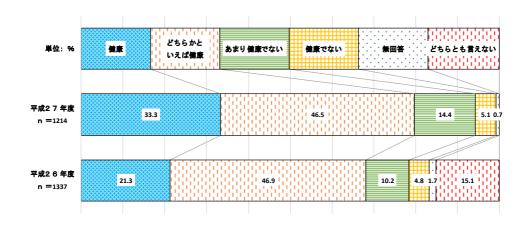
標本誤差
$$(2 段階抽出)$$
 =2 $\sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1}} \times \frac{p(1-p)}{n}$ $N = 母集団数$ $n = 比率算出の基数$ $p = 回答の比率$

4 調査結果

1. 健康・体力について

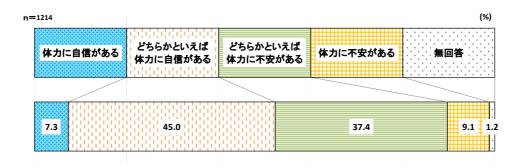
問1. あなたは、ご自分の健康状態をどのように感じていますか。(〇は1つ)

ご自身の健康状態が、「健康」と感じている方は33.3%となっています。おおむね健康(「健康」「どちらかといえば健康」)と感じている方は、79.8%と約8割です。



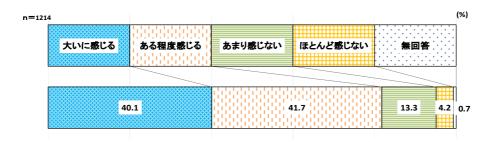
問2. あなたは、ご自分の体力をどのように感じていますか。(Oは1つ)

「どちらかといえば体力に自信がある」方が45.0%ともっとも多くなっており、「体力に自信がある」方を含めると50%以上になります。しかし、「どちらかといえば体力に不安がある」方が37.4%と2番目に多くなっています。



問3. あなたは、運動不足を感じていますか。(Oは1つ)

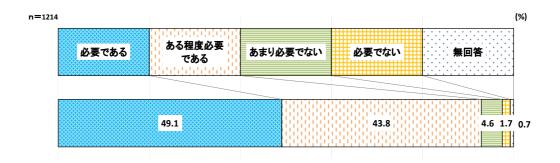
運動不足を「ある程度感じる」方が41.7%ともっとも多くなっています。次いで、「大いに度感じる」が40.1%となっています。



2. スポーツの実施状況について

問4. あなたは、幸福で豊かな生活を送るうえで、スポーツ活動(実施だけでなく、観戦、支援、スポーツイベント参加・開催を含むスポーツ活動全般)をどのようにお考えですか。(〇は<u>1</u>つ)

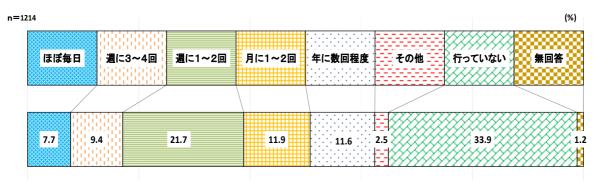
必要(「必要である」「ある程度必要である」)と考えている方は、92.9%とほとんどの方がスポーツ活動の必要性を感じています。特に、「必要である」と答えた方は49.1%と約半数となっています。



問5. あなたは、日ごろ、運動やスポーツ活動をどのくらい行っていますか。(Oは<u>1つ</u>)

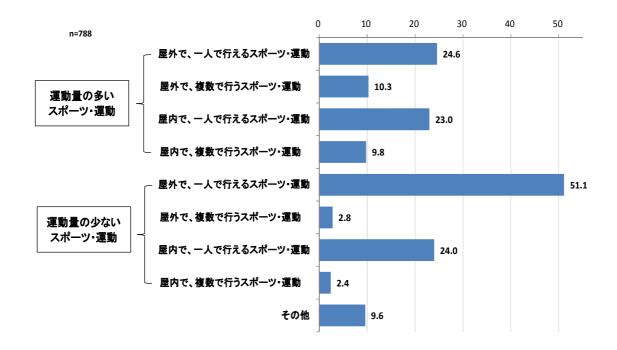
日頃、運動やスポーツ活動を「行っていない」と答えた方がもっとも多く、33.9%となっています。次いで、「週に $1\sim2$ 回行っている」と答えた方が21.7%となっています。

週に1回以上運動やスポーツを行っている方は、38.8%います。月に最低1回以上運動やスポーツ活動をしている方は、50.7%と約半数になっています。



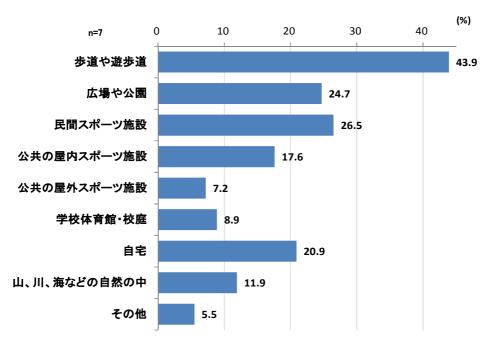
問6.【問5で運動やスポーツを行っていると回答した方にお聞きします。】 主にどのような運動を行っていますか。(〇は3つまで)

全体的に見ると、「一人で行えるスポーツ・運動」と回答している方が20%以上と目立っています。「運動量の少ないスポーツ・運動」で、「屋外で一人で行えるスポーツ・運動」と回答している方が51.1%と、もっとも多くなっています。



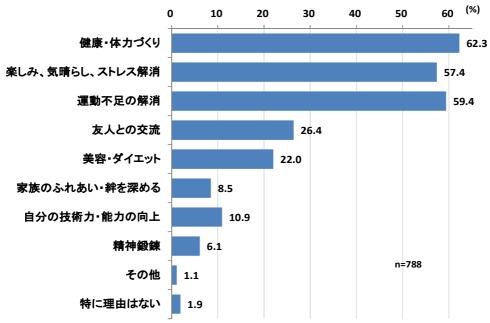
問7. 【問5で運動やスポーツを行っていると回答した方にお聞きします。】 そのスポーツや運動(問6で回答したスポーツや運動)を行った場所はどこですか。 (〇は3つまで)

「歩道や遊歩道」でのスポーツ・運動を行っている方が43.9%ともっとも多くなっています。 次いで「民間スポーツ施設」26.5%、「広場や公園」24.7%と多くなっています。



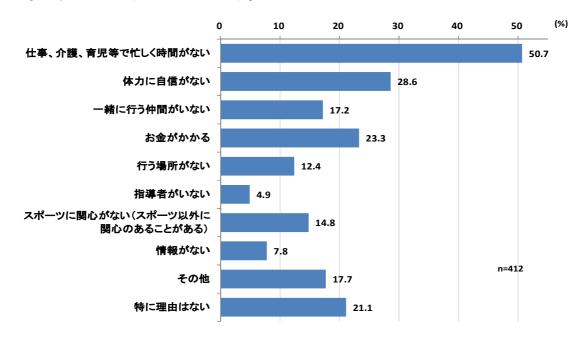
問8.【問5で運動やスポーツを行っていると回答した方にお聞きします。】 あなたが、スポーツや運動を行ったのはどのような理由からですか。(〇は<u>いくつでも</u>)

スポーツや運動を行う理由として、「健康・体力づくり」が 6 2. 3% ともっとも多くなっています。



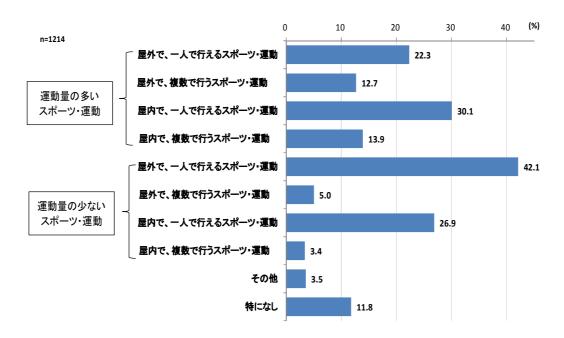
問9.【問5で運動やスポーツを行っていないと回答した方にお聞きします。】 あなたが、スポーツや運動を行わないのはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

スポーツや運動を行わない理由として「仕事、介護、育児等で忙しく時間がない」と回答した方がもっとも多く、50.7%となっています。



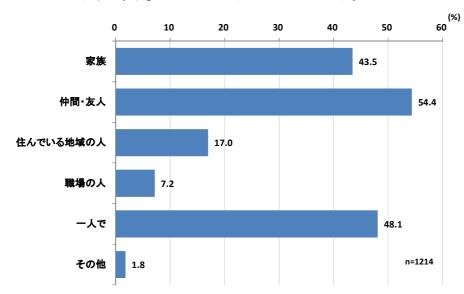
問10. あなたが、今後行ってみたい(引き続き行いたい)スポーツや運動はありますか。 (〇は3つまで)

全体的に、「一人で行えるスポーツ・運動」を行いたいという方が多く、特に「運動量の少ないスポーツ・運動」で、「屋外で、一人で行えるスポーツ・運動」を行いたいという方が42.1%ともっとも多くなっています。



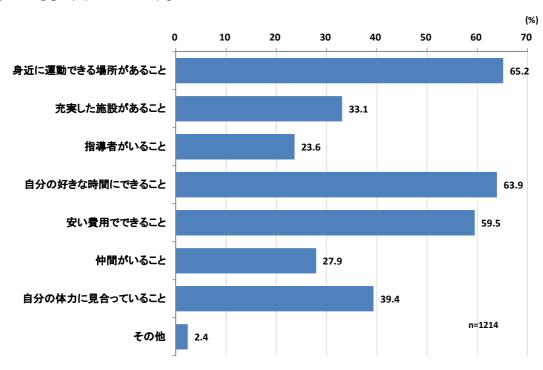
問11. あなたは、今後スポーツや運動を行うなら、だれと行いたいですか。(Oは<u>いくつでも</u>)

スポーツや運動を、「仲間・友人」と行いたいと思っている方が 54.4%ともっとも多く、次いで「一人で」が 48.1%、「家族」が 43.5%となっています。



問12. あなたは、スポーツ活動や運動を活発にする(始める)ために必要だと思うことはどのようなことですか。(Oは<u>いくつでも</u>)

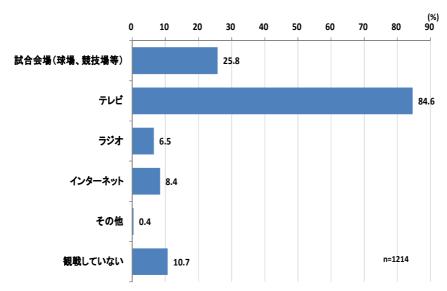
スポーツや運動を始めるためには、「身近にできる場所があること」と回答している方が65. 2%ともっとも多くなっています。



3. スポーツ観戦について

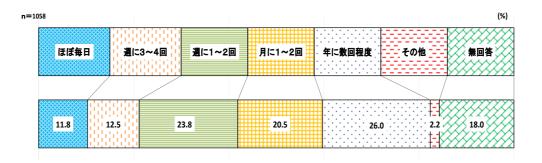
問13. あなたがスポーツを観戦するのはどのような方法ですか。(Oは<u>いくつでも</u>)

スポーツ観戦は、「テレビ」と答えた方が84.6%ともっとも多く、次いで「試合会場」まで 出向いている方は25.8%でした。

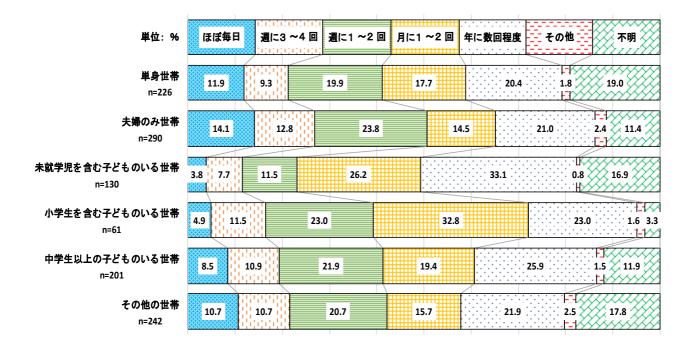


問14. 【問13でスポーツ観戦していると回答した方にお聞きします。】 あなたは、日ごろ、どのくらいスポーツを観戦していますか。(〇は1つ)

日頃スポーツ観戦をしている方は、「週に $1\sim2$ 回」の方がもっとも多く、23.8%となっています。週に1回以上観戦する方は、48.1%と5割近い方がスポーツ観戦をしていることになります。



【世帯別観戦状況】



問15. 【問13でスポーツ観戦している人と回答した方にお聞きします。】

あなたは、どのようなスポーツを観戦していますか。(直接スポーツ・運動名を<u>記入</u>してください。)

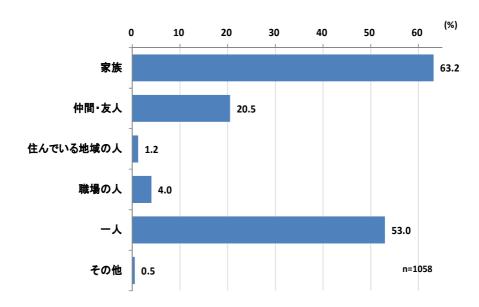
観戦しているスポーツは全体で「野球」54.9%、「サッカー」46.9%となっています。

n = 1058

| スポーツ・運動名 | 人数 | (%) | スポーツ・運動名 | 人数 | (%) | スポーツ・運動名 | 人数 | (%) |
|----------|-----|------|-------------|----|-----|---------------|----|-----|
| 野球 | 581 | 54.9 | | 8 | 0.8 | | 2 | 0.2 |
| サッカー | 496 | 46.9 | モータースポーツ | 7 | 0.7 | ビーチバレー | 2 | 0.2 |
| テニス | 276 | 26.1 | プロレス | 7 | 0.7 | | 1 | 0.1 |
| ゴルフ | 181 | 17.1 | アメリカンフットボール | 7 | 0.7 | 弓道 | 1 | 0.1 |
| 相撲 | 159 | | | 6 | | ころばん体操 | 1 | 0.1 |
| スケート | 155 | | 競馬 | 6 | 0.6 | ジョギング | 1 | 0.1 |
| バレーボール | 126 | | 柔道 | 6 | 0.6 | ソフトボール | 1 | 0.1 |
| マラソン | 66 | | バドミントン | 5 | 0.5 | | 1 | 0.1 |
| 水泳(競泳) | 57 | 5.4 | F1 | 5 | | ボディビル | 1 | 0.1 |
| 卓球 | 48 | | ニュース | 5 | | ドッヂビー | 1 | 0.1 |
| ボクシング | 47 | | 釣り | 5 | 0.5 | スラックライン | 1 | 0.1 |
| バスケットボール | 32 | 3.0 | ボーリング | 5 | 0.5 | | 1 | 0.1 |
| 体操 | 26 | | ダンス | 4 | 0.4 | 山歩き | 1 | 0.1 |
| ラクビ― | 24 | | ウォーキング | 3 | 0.3 | サーフィン | 1 | 0.1 |
| 駅伝 | 22 | 2.1 | トライアスロン | 3 | 0.3 | WINTER SPORTS | 1 | 0.1 |
| 陸上競技 | 20 | 1.9 | フットサル | 3 | 0.3 | 空手 | 1 | 0.1 |
| スキー | 18 | 1.7 | ラクロス | 2 | 0.2 | スケボー | 1 | 0.1 |
| ロードレース | 14 | | スノーボード | 2 | 0.2 | BMX | 1 | 0.1 |
| オリンピック | 13 | | バレエ | 2 | 0.2 | | | |
| 国際大会 | 11 | 1.0 | カーレース | 2 | 0.2 | 無回答 | 75 | 7.1 |

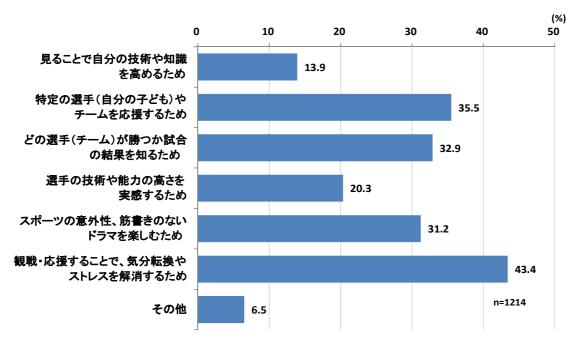
問16.【問13でスポーツ観戦していると回答した方にお聞きします。】 あなたは、誰とスポーツ観戦をしていますか。(〇はいくつでも)

「家族」とスポーツ観戦している方がもっとも多く、63.2%となっています。次いで多いのが「一人」で53.0%となっています。



問17. あなたは、どのような目的でスポーツ観戦をしますか。(どのような目的であればスポーツ観戦をしようと思いますか。)(〇はいくつでも)

スポーツ観戦に関して、「観戦・応援することで、気分転換やストレスを解消する」ことを目的 としている方がもっとも多く、43.4%となっています。



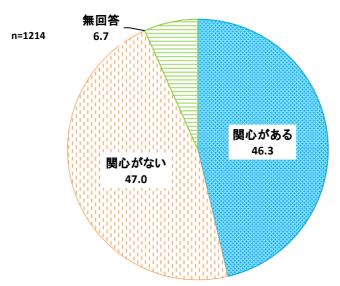
4. スポーツを支える活動について

問18. あなたは、ボランティア活動に関心がありますか。(〇は1つ)

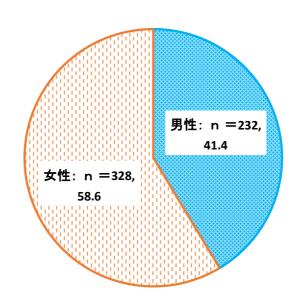
※ボランティア活動は、スポーツに関するボランティアに限りません。報酬を目的としない、 自分の労力・技術・時間を提供して地域や福祉のために活動するものを指します。(町会・ 自治会活動、PTA活動なども含むものとします)

ボランティア活動に「関心がある」方は、46.3%で、「関心がない」方は、47.0%となっており、ほぼ同数となっています。

ボランティア活動に関心のある方を男女別に見ると、「女性」が58.6%、「男性」が41.4% となっています。



【男女別、ボランティアに関心のある方】

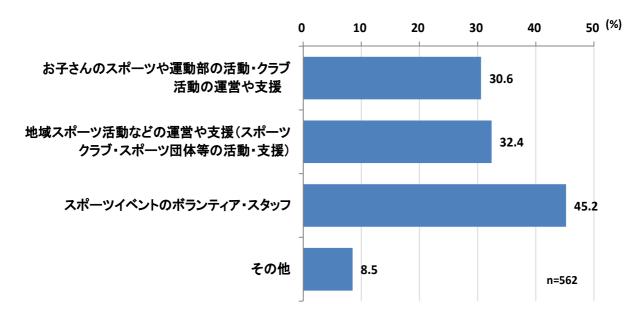


問19.【問18でボランティア活動に関心があると回答した方にお聞きします。】

スポーツや運動の指導・審判、スポーツイベントのボランティア等のスポーツを支える活動 について、お聞きします。あなたは、どのようなスポーツを支える活動に(引き続き)参加し たいと思いますか。

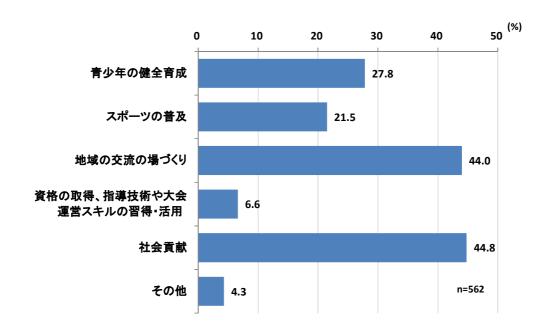
(Oは<u>いくつでも</u>)

「スポーツイベントのボランティア・スタッフ」の活動に「(引き続き)参加したい」と答えた方がもっとも多く、45.2%となっています。次いで、「地域スポーツ活動などの運営や支援(スポーツクラブ・スポーツ団体等の活動・支援)」が32.4%、「お子さんのスポーツや運動部の部活・クラブ活動の運営や支援」が30.6%となっています。



問20.【問18でボランティア活動に関心があると回答した方にお聞きします。】 あなたは、どのような目的で(引き続き)スポーツを支える活動に参加したいと思いますか。 (〇はいくつでも)

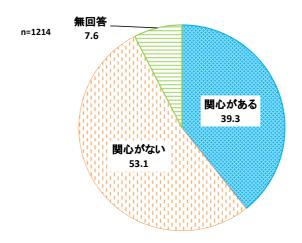
スポーツを支える活動に参加する目的は、「社会貢献」が最も多く、44.8%となっています。 次いで、「地域の交流の場づくり」が44.0%となっています。



5. 障がい者スポーツについて

問21. あなたは、障がい者スポーツに関心がありますか。(Oは10)

障がい者スポーツに「関心がある」方は39.3%となっています。

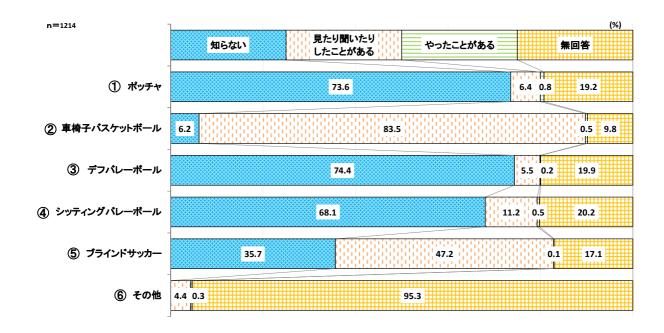


問22. あなたは、障がい者スポーツを知っていますか。知らない、見たり聞いたりしたことがある、やったことがある、のいずれかを①~⑥までそれぞれについてお答えください。

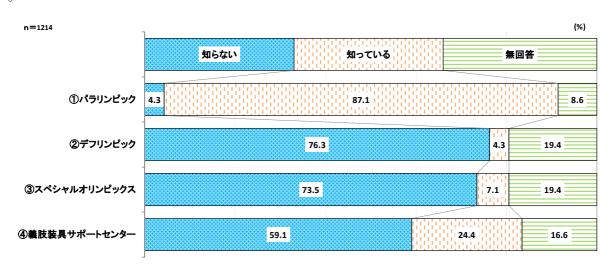
また、障がい者スポーツや障がい者に関する用語について、知っていますか。①~④までそれぞれについてお答えください。(〇は<u>それぞれ1つ</u>)

「車椅子バスケットボール」や「ブラインドサッカー」以外の競技については認知度が低く、7 割前後の方が「知らない」と回答しています。

その他に「見たり聞いたりしたことがある、やったことがある」障がい者スポーツとしては、「車椅子テニス」や、「車椅子マラソン」という回答がありました。



「パラリンピック」という用語は9割近くの方が知っています。しかし、その他の「デフリンピック」や「スペシャルオリンピックス」といった用語は、半数以上の方が「知らない」と答えています。



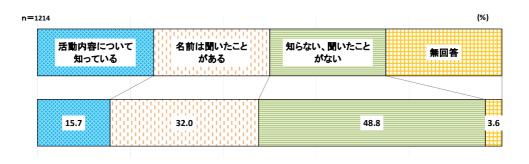
6. 地域スポーツクラブについて

問23. あなたは、「地域スポーツクラブ」を知っていますか。(Oは1つ)

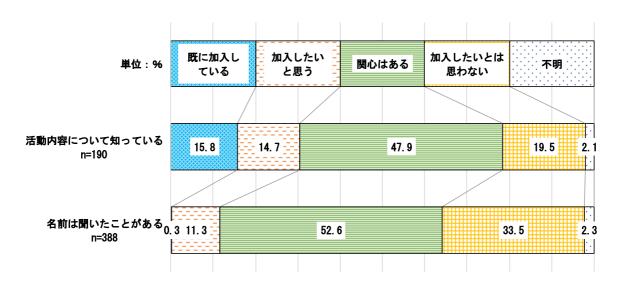
※地域スポーツクラブは、学校施設や公共スポーツ施設などの身近な場所で、多種目でだれても比較的低料金で参加できる、地域住民が主体的に運営しているスポーツクラブのことです。(総合型地域スポーツクラブと同義です。)

地域スポーツクラブを知っている方(「活動内容について知っている」「名前は聞いたことがある」) は半数近くいますが、実際に活動内容まで知っている方は、15.7%となっています。

地域スポーツクラブの活動内容を知っている方で、「既に加入している」方は15.8%ですが、「関心はある」方は47.9%、「名前を聞いたことがある」方では、52.6%と多くなっています。

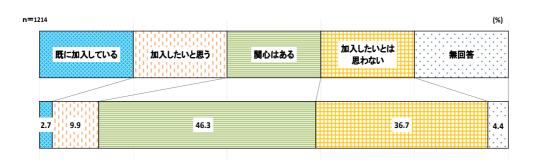


【地域スポーツクラブを知っている人の加入への関心状況】



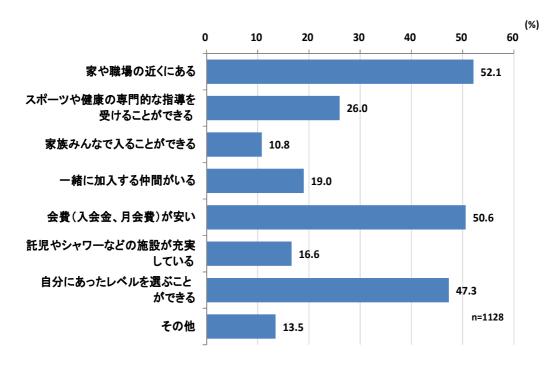
問24. あなたは「地域スポーツクラブ」が身近にあれば、加入したいと思いますか。(Oは1つ)

地域スポーツクラブに関して、「既に加入している」方は2.7%となっていますが、「関心はある」方は46.3%ともっとも多くなっています。



問25. 【問24で「既に加入している」と回答した以外の方にお聞きします。】 あなたは、今後どのような条件が整えば、地域スポーツクラブに入りたいと思いますか。 (〇は<u>いくつでも</u>)

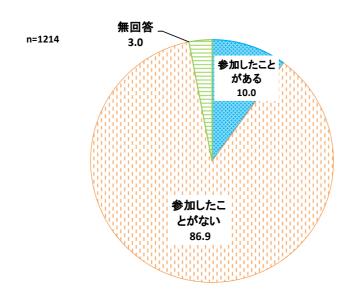
地域スポーツクラブへの加入条件として、「家や職場の近くにある」52.1%、「会費が安い」50.6%と多くなっています。



7. 区の施策・施設等について

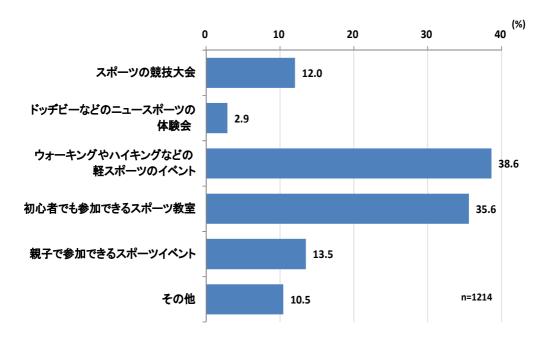
問26. あなたは、この1年間で区内のスポーツイベントに参加したことがありますか。参加には 応援や観覧も含みます。($O(t_1, t_2)$)

区内でのスポーツイベントに「参加したことがない」方が86.9%となっています。



問27. あなたは、今後どのようなスポーツイベントに参加したいですか。(Oは<u>いくつでも</u>)

「ウォーキングやハイキングなどの軽スポーツのイベント」38.6%、「初心者でも参加できるスポーツ教室」35.6%となっています。

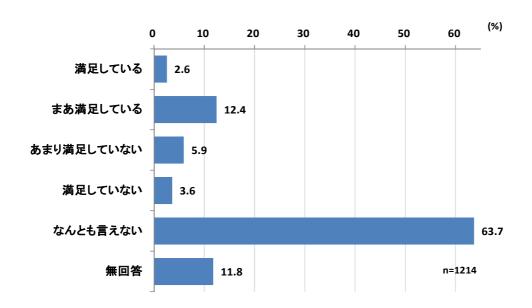


問28. あなたは、区のスポーツイベント・スポーツ施設についてそれぞれ満足していますか。 (〇はそれぞれ<u>1つ</u>)

【スポーツイベント】

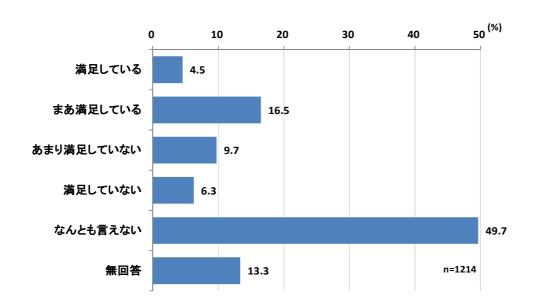
「なんとも言えない」63.7%ともっとも多くなっています。次いで、「まあ満足している」 が

12. 4%となっています。



【スポーツ施設】

「なんとも言えない」が49.7%、次いで「まあ満足している」が16.5%となっています。

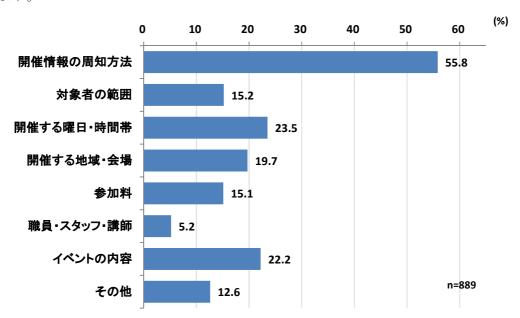


問29. 【問28で「あまり満足していない・満足していない・なんとも言えない」と回答した方にお聞きします。】

あなたは、区のスポーツイベント・スポーツ施設について、それぞれどのような点を改善・充実するとよいと思いますか。(Oはそれぞれいくつでも)

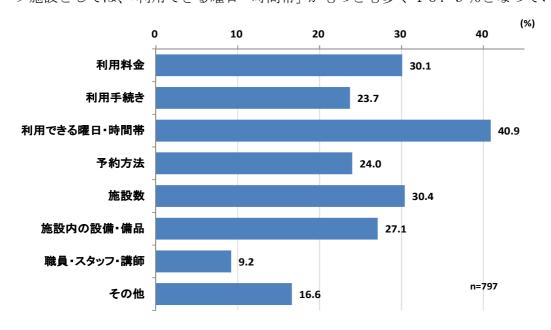
【スポーツイベント】

区のスポーツイベントの改善点として、「開催情報の周知方法」がもっとも多く、55.8%となっています。



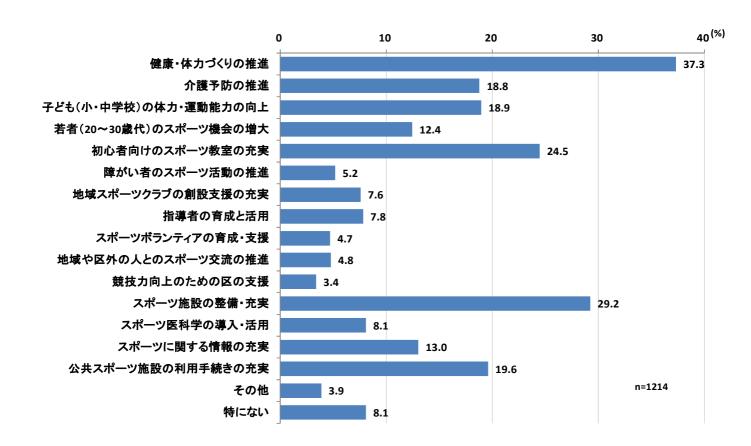
【スポーツ施設】

スポーツ施設としては、「利用できる曜日・時間帯」がもっとも多く40.9%となっています。



問30. あなたは、スポーツ活動がより活性化するには、区がどのような施策を行う必要があると考えますか。(〇は3つまで)

必要とされている施策としては、「健康・体力づくりの推進」がもっとも多く37.3%となっています。次いで、「スポーツ施設の整備・充実」29.2%、「初心者向けのスポーツ教室の充実」24.5%となっています。



2 荒川区スポーツ推進プラン策定委員会設置要綱

荒川区スポーツ推進プラン策定委員会設置要綱

平成27年7月22日制定 (27荒地ス第686号) (副 区 長 決 定)

(設置)

第1条 荒川区スポーツ推進プラン(以下「推進プラン」という。)を策定するに当たり、 多様な分野から専門的な助言を得るため、荒川区スポーツ推進プラン策定委員会(以下 「委員会」という。)を設置する。

(所掌事項)

- 第2条 委員会は、次に掲げる事項について検討し、その結果を区長に報告する
 - (1)推進プランの策定に関すること。
 - (2) 前号に掲げるもののほか、推進プラン策定に関して必要な事項に関すること。

(構成)

- 第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) 学識経験者
 - (2) 競技経験者
 - (3) 関係団体代表者等
 - (4) 別表1に掲げる区職員
 - (5) その他区長が必要と認める者

(委員長及び副委員長)

- 第4条 委員長は、委員の互選により選任する。
- 2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員のうちから委員長が指名する者とする。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故のあるとき又は委員長が欠けたときは、 その職務を代理する。

(設置期間)

第5条 委員会の設置期間は、設置された日から第2条に規定する報告の日までとする。

(招集)

第6条 委員会は、委員長が招集する。

- 2 前項の規定にかかわらず、最初に開かれる委員会は、区長が招集する。
- 3 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、意見を聴くことができる。

(会議の公開)

- 第7条 委員会の会議は公開とする。ただし、公開することにより著しい支障を及ぼす恐れがある等、相当な理由があると委員長が認めるときは、これを非公開とすることができる。
- 2 傍聴者の定員は5名とし、これを超える傍聴の申し出があった場合には、抽選により 傍聴人を定める。
- 3 委員長は、会議の公開にあたり、会議の円滑かつ静穏な進行を確保するため、傍聴者 に必要な制限を課すことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、地域文化スポーツ部スポーツ振興課において処理する。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員長が別に定める。

附則

この要綱は、平成27年7月22日から施行し、設置期間の終了日をもって、その効力を失う。

別表1 (第3条関係)

| 地域文化スポーツ部を担任する副区長 |
|-------------------|
| 地域文化スポーツ部長 |
| 産業経済部長 |
| 福祉部長 |
| 健康部長 |
| 教育部長 |

3 荒川区スポーツ推進プラン策定委員会 委員名簿

| | 区分 | 団体名・役職名等 | 氏 名 |
|-----|-----------|--|-------|
| 1 | 学識経験者 | 首都大学東京健康福祉学部学部長 【委員長】 | 木下 正信 |
| 2 | | 早稲田大学スポーツビジネス研究所招聘研究員 | 松澤 淳子 |
| 3 | | 仲村整形外科医院名誉医院長 | 仲 村 威 |
| 4 | | 日本パラリンピック委員会運営委員会委員 (日本デフバレーボール協会理事長) | 大川 裕二 |
| 5 | ア | 2013 ソフィアデフリンピック男子 400m障害日本代表 | 髙田 裕士 |
| 6 | スリー | 仁川アジアパラ競技大会女子走り幅跳びメダリスト | 髙田・千明 |
| 7 | | バルセロナオリンピック陸上 400m日本代表 | 渡邉 高博 |
| 8 | 区 | 荒川区体育協会会長 | 髙田 忠則 |
| 9 | | 荒川区体育協会理事長 | 小 山 博 |
| 1 0 | 民代 | 荒川区スポーツ推進委員会会長 | 村井 泰雄 |
| 1 1 | 表 | 東京青年会議所荒川区委員会副委員長 | 大木 武司 |
| 1 2 | | 東京都障害者スポーツ指導員協議会荒川会長 | 神保 秀久 |
| 1 3 | 荒川区・教育委員会 | 副区長 【副委員長】 | 北川 嘉昭 |
| 1 4 | | 地域文化スポーツ部長 | 池田 洋子 |
| 1 5 | | 産業経済部長 | 石 原 久 |
| 1 6 | | 福祉部長 | 谷 嶋 弘 |
| 1 7 | 員会 | 健康部長 | 倉橋 俊至 |
| 1 8 | | 教育部長 | 阿部 忠資 |

[※]委員長及び副委員長は、第1回策定委員会において、荒川区スポーツ推進プラン策定委員会設置要綱第4条に基づき選任

[※]肩書は平成27年8月現在

4 検討経過

| | | · |
|-----|----------------------|--|
| 旦 | 開催日 | 内容 |
| 第1回 | 平成27年8月11日 | ◆第1回荒川区スポーツ推進プラン策定委員会 (1)委員長選出 (2)会議の公開について |
| | | (3) 平成26年荒川区スポーツ振興区民会議における意見等について |
| | | (4)「荒川区民スポーツ意識調査」中間調査報告書(案)について(5)スポーツ推進プラン策定の骨子(案) |
| 第2回 | 平成27年11月30日 | ◆第2回荒川区スポーツ推進プラン策定委員会 (1)第一回委員会での意見等について (2)事前アンケートについて (3)基本理念等(案)について (4)事業体系図(案)について |
| | 平成27年12月~ 平成28年2月 | 関係部署による調整・検討 |
| 第3回 | 平成28年3月22日 | ◆第3回荒川区スポーツ推進プラン策定委員会 (1)パブリックコメントの実施結果について (2)荒川区スポーツ推進プランの策定について (3)荒川区スポーツ推進プランの推進について |

※荒川区民スポーツ意識調査 実施期間:平成27年5月21日~平成27年6月7日 ※パブリックコメント 実施期間:平成28年2月25日~平成28年3月9日

荒川区スポーツ推進プラン ≪平成28年度~平成37年度≫

平成28年4月発行/登録(27)0127号

発行 荒川区地域文化スポーツ部スポーツ振興課 〒116-8501 荒川区荒川2-2-3 電話 03(3802)3111(代)

荒川区シンボルキャラクター「あら坊」





荒川区シンボルキャラクターの 妹キャラクター「あらみぃ」